

関係者各位

公益財団法人ロッテ財団

「食と健康」の分野における 若手研究者対象の研究助成の公募を開始します

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団事業に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、2021年度の研究助成公募開始にあたり、募集要項等を郵送させていただきました。

自然科学分野のみならず、マーケティングや食文化研究等、社会・人文科学系、また情報科学系の各学部・研究科の皆様にも広くご案内賜れば幸甚に存じます。

今後とも当財団研究助成事業へのご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

記

1. 研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉(募集期間：4月1日～6月26日) ※助成者の雇用に係る費用も助成します。

助成金額	1,500万円／年 最長5年間助成 助成者の給与等・研究費、受入教員の研究費、機関管理費
助成件数	1件以内

2. 奨励研究助成 (A) (B) (募集期間：4月1日～6月5日)

	奨励研究助成 (A)	奨励研究助成 (B)
助成金額	上限 300万円	上限 100万円
助成件数	20件程度	20件程度

■助成対象分野

- 食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術
- 食品のマーケティング
- 食文化
- 嗜好性 (おいしさ・味覚)
- 栄養
- 食品安全・衛生

【2021年度特定課題】 ●食の未来 ●情報科学の食・健康への活用

以上

※なお、当郵便物のご送付先に訂正・変更がございます場合は、お手数ですがご一報頂ければ幸いです。

◆募集についての情報は財団ホームページをご参照ください。

財団ホームページアドレス <http://www.lotte-isf.or.jp>

お問い合わせ先 (財団 E-mail) zaidan.lotte@lotte-hd.co.jp

2020年4月1日

公益財団法人ロッテ財団
第8回（2021年度）研究助成事業
「研究者育成助成」〈ロッテ重光学術賞〉 募集要項

1. 本助成の趣旨

本助成は、「食と健康」の分野において、優れた若手研究者がわが国トップクラスの研究者として成長することを願い、それにふさわしい支援を行おうとするものであり、国内の民間助成としては新しい形態の助成制度です。助成対象者には、テニユア職に就くことを目標に、育成支援教員の下で安定した研究の場を確保しつつ、研究に必要な資金を長期にわたり助成します。

2. 本助成の特徴

- (1) 助成対象者へ生活費の支援を行い、生活基盤の安定を図ります。
- (2) 助成対象者とその育成支援の役割を担う教員(以下、「育成支援教員」)をペアで助成し、助成対象者に対する組織内での研究体制をサポートします。(「9.育成支援教員の役割」参照)
- (3) 助成対象者および育成支援教員に対し、最長5年間の助成を行います。

3. 助成金額・期間・件数

(1) 助成金額・期間

1件あたりの助成金額 1,500万円/年
(内訳については「10.助成金の支払いおよび用途」を参照)

助成期間 原則、2021年4月から2026年3月までの最長5年間

(2) 年間助成件数 1件

4. 助成対象分野

本助成では、「食と健康」に関する研究において、下記の分野を助成対象とします。
自然科学や人文・社会科学など、幅広い分野からのご応募をお待ちしています。

2021年度特定課題として、「⑧食の未来」「⑨情報科学の食・健康への活用」の2課題を設定していますので、併せてご確認ください。

①食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術

②食品のマーケティング

③食文化

④嗜好性（おいしさ・味覚）

⑤栄養・機能性

⑥食品安全・衛生

⑦その他分野横断的領域

【2021年度特定課題】

⑧食の未来

⑨情報科学の食・健康への活用

☆ 本研究助成事業は、社会課題の解決を通じて「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に貢献していくことを目標の一つとしていることにより、本年度から、申請書内に申請課題研究におけるSDGsの取り組みについての記載欄を設けております。

なお、SDGsに関する詳細は、下記の外務省ホームページ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

をご覧ください。

〈分野別課題の参考例〉

※下記はあくまで参考例です。この例にとらわれず、独創的、先端的テーマを歓迎します。

- ①-1 健康の増進を目指す農・水・畜産食品開発の基盤となる新技術の研究
- ①-2 栄養性・嗜好性を損なわない新しい食品流通・保護・加工法の開発研究
- ①-3 副産物の活用に関する新技術の研究

- ②-1 食と健康を志向したマーケティングないしビジネスモデルの研究
- ②-2 食品の流通の研究
- ②-3 食と健康に関わる消費者行動の研究

- ③-1 菓子を含めた嗜好食品に関する食文化・伝統的技術を検証する研究
- ③-2 食と健康の消費文化変容に関する研究
- ③-3 食と健康に関する規制の現状と望ましい政策提言

- ④-1 五感の末梢・中枢における感知・認知機構の解析・応用研究
- ④-2 嗜好の変化に関わる因子・機序の研究
- ④-3 咀嚼・嚥下に関わる食品物性の解析・応用研究

- ⑤-1 栄養素・機能性食品成分の疾病予防効果を事前予知する研究
- ⑤-2 加齢と栄養の関わりや運動と栄養の関わりを検証する研究
- ⑤-3 消化管・膵臓・脳などに発現する味覚受容体の存在意義の解析研究

- ⑥-1 食の安全と衛生の評価法の開発研究
- ⑥-2 食品成分の摂取不足のリスクと摂取過剰のリスクに関する研究
- ⑥-3 食の安全・安心の社会的関心の高まりの変遷に関する調査研究

- ⑧-1 培養肉など新食材に関する研究
- ⑧-2 新食感を生み出すなど新調理法に関する研究
- ⑧-3 新しい社会のあり方を創造する食の提供方法に関する研究
- ⑧-4 環境に配慮した食品包装素材・技術に関する研究

- ⑨-1 食と健康の分野での数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-2 食や腸内細菌に関する数理・データサイエンス活用研究
- ⑨-3 食・料理と健康に関する情報通信技術活用研究

5. 応募資格

- (1) 本年4月1日時点で原則※40歳以下の方。国籍は問いませんが、本人が日本語で申請書を記載できる方。
※ 出産や育休など、やむを得ぬ事情で研究を中断した期間がある場合は、申請書内「申請者の略歴」に記載してください（任意）。
- (2) 申請時点での所属先は国内・海外を問いませんが、助成開始後の受入研究機関は国内の大学・短期大学・高等専門学校および公的研究機関のみとします。海外の研究機関から国内に戻る目的での当助成への応募も可能です。
- (3) 申請時において、助成開始後の受入研究機関の機関長(学部長・研究科長・研究所長等)の承認および育成支援教員の推薦が得られ、かつ育成支援教員の下で安定した研究の場を確保し、独自のテーマで主体性を保ちつつ研究を遂行できる方。
- (4) 助成開始当日までに、受入研究機関より有期のポスト(称号)を付与され、機関内での研究の資格と環境を獲得できる方。
- (5) 助成開始後、当財団助成金と受入研究機関・科研費等からの給与・研究奨励金等の二重給与とならない方。
- (6) 科研費等の大型助成については、研究課題名の重複や、エフォート管理上、研究費の過度の集中が認められた場合には、不採択となることがあります。
- (7) 育成支援教員の所属する講座と特定企業との結びつきが極めて強い等、研究の独自性の担保が難しいと懸念される場合には、不採択となることがあります。
- (8) 当財団の「奨励研究助成」と同時に応募または助成を受けることはできません。

なお、2020年9月23日(水)の面接審査および2020年12月15日(火)の贈呈式に、申請者本人および育成支援教員本人が出席できる場合のみご応募ください。

6. 応募方法

今年度募集より、申請書類の郵送は不要です。Web 上でのみ申請手続きを行ってください。

(1) Web 申請

ロッテ財団ホームページ>「研究助成事業」>「申請はこちらから」より、「マイページ」にログインし、登録・基本情報の入力、および申請書類のアップロードを行ってください。

「申請はこちらから」：<http://www.lotte-isf.or.jp/method.html>

(2) 申請書類記入上の留意点

- ① 申請書類は日本語で本人が記入してください。
- ② 申請書類の記入方法については、書類上に記載している注意事項を必ずご確認ください。

募集締め切り後の申請書類記載内容の変更および論文の差し替え等はできません。

7. 応募締め切り

2020年6月26日(金) 24時まで Web での登録完了のこと

8. 選考日程・結果通知

- (1) 2020年8月27日(木)開催の選考委員会にて書面審査を行い、結果を8月31日(月)以降に通知します。
- (2) 書面審査通過者には、9月23日(水)に、申請者と育成支援教員に面接を受けていただきます(交通費・宿泊費支給)。
- (3) 面接の可否結果については、10月7日(水)開催予定の理事会において承認後、10月9日(金)以降にメールまたは文書で通知します。

なお、採否の理由についての照会には回答いたしかねます。

9. 育成支援教員の役割

- (1) 育成支援教員には、助成対象者が助成終了時までにはテニユア職が得られるよう、国際的にトップレベルの研究者として成長することを目指し、積極的な支援を行う役割があります。
- (2) 育成支援教員には、助成対象者の研究の独自性を最大限尊重していただきます。
- (3) 育成支援教員には、助成対象者を研究室に受け入れ、研究活動ができるスペースの確保等、研究に専念できる環境づくりに協力していただきます。
- (4) 育成支援教員には、助成対象者が研究機器等を使用することを可能な限り認めるなど、研究の推進に支障のないよう心がけていただきます。

10. 助成金の支払いおよび用途

- (1) 助成金は、助成開始後の受入研究機関に対して支払われます。内訳例は次のとおりです。

(例)

・助成対象者の生活費相当額	約 700 万円	※1
・助成対象者の研究費	約 350 万円	※1
・育成支援教員の研究費	300 万円	※2
・受入研究機関の管理費	150 万円	
<hr/>		
合計金額	1,500 万円	

※1 助成対象者の生活費相当額および研究費の配分については、受入研究機関の定める標準給与額を参考に、受入研究機関と財団とで協議の上決定します。生活費相当額には、雇用側と本人に生じる社会保険料、所得税、諸手当等も含まれます。

※2 育成支援教員に対しては、助成対象者の自立した研究体制および環境の整備・充実に努めていただくため、年間 300 万円の研究費が支払われます。

なお、いずれの研究費についても年次ごとの会計報告が必要です。

- (2) 研究費の用途は、助成対象者については研究に直接必要な経費とします(設備備品類、消耗品費、旅費等)。一方、育成支援教員については、教員自身の判断で、助成対象者の環境整備を含む育成支援費、およびそれに関連するサポートを含む育成支援教員の研究費とします。

ただし、以下の費用は対象外とします。

- ① 建物等の施設に関する経費(直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付等のための経費を除く)
- ② 助成期間中に発生した事故・災害の処理のための経費
- ③ 助成対象者が所属する組織のオーバーヘッド
- ④ 助成対象者および育成支援教員本人への人件費・謝金

11. 助成金の贈呈

(1) 贈呈式

2020年12月15日(火)に実施される贈呈式には、助成対象者本人と育成支援教員本人に必ず出席していただきます。(欠席の場合は、採択を取り消すこともあります)

(2) 助成金振込時期・振込先

2021年3月末までに、受入研究機関の指定口座に振込みます。助成対象者の個人口座への振込はできません。

12. 助成決定後の遵守事項

助成決定後、助成対象者・育成支援教員には、主に以下の事項を遵守していただきます。

- (1) 研究計画書および予算書に基づく研究活動
- (2) 年次報告書および最終研究報告書の期限内提出
- (3) 助成3年目の中間報告会、および助成終了時の最終報告会での発表

13. 個人情報の取扱いに関する事項

- (1) 当財団の研究助成への応募にかかわる全ての個人情報は、選考に関する手続き(審査および当財団からの連絡)のみに使用します。
- (2) 助成決定後、当財団に「個人情報の取扱いに関する同意書」を提出し、併せて主として当財団の刊行物とホームページ等に以下の情報を公開することに同意していただきます。
 - ① 助成対象者・育成支援教員の氏名、所属機関名、職位、顔写真
 - ② 研究課題名
 - ③ 申請研究の内容
 - ④ 研究期間
 - ⑤ 助成金額
 - ⑥ 研究成果報告
 - ⑦ 財団主催の行事に参加した際、財団で撮影した写真

14. 申請に関する問い合わせ先

※電話でのお問い合わせは受け付けていません。必ずメールでお願いします。

公益財団法人ロッテ財団 研究助成担当 宛
メールアドレス： zaidan.lotte@lotte-hd.co.jp

以上

2020年5月吉日

関係者各位

公益信託 田島毓堂語彙研究基金
受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

「公益信託 田島毓堂語彙研究基金」の募集について

拝啓 平素は、当基金の募集にご協力賜り、誠にありがとうございます。

当基金は、語彙研究に対する研究助成及び優れた業績に対する顕彰を行い、語彙研究のさらなる発展に寄与することを目的として2004年3月、田島毓堂氏（2004年3月名古屋大学ご退官）より弊社が受託して設立された基金です。

今年度も、下記のとおり第17回目となる事業を実施することとなりました。

つきましては、お手数をお掛けしますが、募集について関係部署にご周知いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者(国籍は問わない)で、これまでに本助成金の受給・学術賞の受賞実績のない方。

2. 提出書類

応募申請書 [研究助成(白色)・学術賞(アイボリー)]、応募資格を証明する書類等
* 研究助成・学術賞の各募集要項と応募申請書は以下のホームページにも掲載
<http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~goi-ken/>

3. 応募期間

2020年5月8日(金)から2020年6月30日(火)【当日消印有効】

4. 研究助成・学術賞(田島毓堂賞)

- ・研究助成金(3名程度) 総額50万円以内
- ・学術賞顕彰金 50万円

5. 選考方法

ご提出いただいた書類に基づいて、運営委員会の審査により決定し、8月末までに本人宛結果を通知します。

6. 提出書類送付先

〒164-0001東京都中野区中野3-36-16
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課 田島毓堂語彙研究基金担当
Tel: 0120-622372 (フリーダイヤル)
(受付時間 平日9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)
E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp
(メール件名には基金名を必ずご記入下さい)

以上

【添付書類】

- ・学術賞(田島毓堂賞)募集要項・応募申請書 1部
- ・研究助成募集要項・応募申請書 1部
- ・ポスター 1部

「公益信託田島毓堂語彙研究基金」研究助成募集要項 (2020 年度実施要項)

この公益信託は、設立者である田島毓堂氏の語彙研究における思いから、言語学の中で、語彙研究（日本語・外国語）の発展を図り、もって学術の発展に寄与することを目的に設定されたものです。

2020 年度事業のひとつとして、研究助成の対象となる研究計画を下記要項にて募集いたします。『研究助成』は、語彙研究に関する優れた個人研究または共同研究に贈呈するものです。これまでの研究助成一覧については、語彙研究会のウェブサイトの「授賞の記録」に掲載されております。

http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~goi-ken/kikin_history.html をご覧下さい。

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者(国籍は問わない)で、これまでに本助成金を受給した実績のない方。

2. 応募方法

研究助成を受けようとする方は、次の各号に掲げる書類を提出して下さい。

(1) 応募申請書

* 応募申請書は以下のホームページに掲載されています。

<http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~goi-ken/>

(2) 応募資格を証明する書類（在職証明書、職員証（写）、在学証明書等）

- 共同申請でも可。
- 応募に当たって提出いただいた書類は一切返却いたしません。
- 前年以前と同テーマでの応募は選考対象外となります。
- 応募申請書は日本語で書かれたものに限定します。

3. 応募期間

2020 年 5 月 8 日（金）から 2020 年 6 月 30 日（火） 【当日消印有効】

4. 助成対象者の決定

助成対象者は、提出書類に基づいて、運営委員会の審査により決定します。

5. 助成対象者の発表

2020 年 8 月末までに、直接本人宛通知します。

6. 助成件数・金額

最大 3 件程度・総額 50 万円以内とし、運営委員会にて研究内容等を勘案して個々の助成対象者に対する助成金額を決定します。

【裏面へ続く】

7. 助成方法

助成対象者が指定した銀行口座に振込みます。

※委任経理とする場合、助成金による間接経費の支払いはできません。

8. 研究成果

2022年3月末までに規定の研究成果報告書と会計報告書をご提出いただきます。

また、助成後2年以内に論文を公表していただきます。（詳細は助成対象者に通知します）

9. 申込み及び問合せ先

<公益信託 田島毓堂語彙研究基金事務局>

〒164-0001 東京都中野区中野 3-36-16

三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課

田島毓堂語彙研究基金担当

TEL: 0120-622372 (フリーダイヤル)

(受付時間 平日 9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)

E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp

(メール件名には基金名を必ずご記入下さい)

「公益信託 田島毓堂語彙研究基金」研究助成応募申請書

公益信託 田島毓堂語彙研究基金 年 月 日
 受託者三菱UFJ信託銀行株式会社 殿

この応募申請書および添付した資料に記載されている事項は、研究助成の助成対象者の選考等、当公益信託の運営に必要な範囲で、当公益信託の運営委員・信託管理人・委託者が取得・利用すること、また、助成が決定した場合は、氏名・所属先等の情報が主務官庁へ提出されることについて、同意の上応募します。

(ふりがな) 氏名 (印)
(年 月 日生)

所属先・職名

現住所 (〒 -)
電話()
FAX()

連絡先 (〒 -)
電話()
FAX()

e-mail アドレス

研究課題

助成希望 金額	万円	予算 総額	万円
------------	----	----------	----

研究の概要・目的・意義
 (先行研究との関連についても論じて下さい)

受託者は、個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、応募者の個人情報を、公益信託業務を遂行するために必要な範囲内に限定して利用いたします。

研究方法・計画
(課題を明らかにするための方法や研究計画を具体的に。)

研究から期待できる成果

研究の予算 総額 万円 (うち助成希望額 万円)

* 下記は助成希望額に対する明細を記入。

旅費(海外、国内別に)		機 器 類		調査研究諸費	
事 項	金 額(千円)	事 項	金 額(千円)	事 項	金 額(千円)
海外 運賃 滞在費				消耗品費 通信運搬費 借料・損料 保険料等	
国内 運賃 滞在費					
計		計		計	

資金計画

(研究計画との関係を明らかにしてください。また、既にこの研究のために獲得した助成金、申請中の助成金があれば記入してください。)

研究経歴書

(現在までの研究テーマについて概略を記入して下さい。また、既に発表した論文があれば、その論文名・掲載誌・発表年月日を記入して下さい。)

「公益信託田島毓堂語彙研究基金」学術賞（田島毓堂賞）募集要項 （2020年度実施要項）

この公益信託は、設立者である田島毓堂氏の語彙研究における思いから、言語学の中で、語彙研究（日本語・外国語）の発展を図り、もって学術の発展に寄与することを目的に設定されたものです。

2020年度事業のひとつとして、学術賞（田島毓堂賞）の授賞対象となる業績を下記要項にて募集いたします。

『学術賞』は、当該期間内に公刊された語彙研究に関する特に優れた研究業績（単行本あるいは論文1編以上）に贈呈するものです。これまでの授賞業績一覧については、語彙研究会のウェブサイトの「授賞の記録」に掲載されております。

http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~goi-ken/kikin_history.html をご覧下さい。

記

1. 応募資格

大学・大学院の教員、又は大学院博士課程(前期・後期)に在籍する学生若しくは運営委員会が認める者(国籍は問わない)で、これまでに本学術賞を受賞した実績のない方。2018年1月1日より2020年5月7日までに語彙研究分野で公刊した、個人（共同も可）としての業績(論文)を有すること。

2. 応募方法

学術賞を受けようとする方は、次の各号に掲げる書類を提出して下さい。

(1) 応募申請書

* 応募申請書は以下のホームページに掲載されています。

<http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~goi-ken/>

(2) 応募資格を証明する書類（在職証明書、職員証（写）、在学証明書等）

(3) 論文のコピー及びその要旨

* 共同論文・共同申請でも可。

* なお、複数の論文の提出を希望する場合は、主たる論文を1つ指定し、その他は副論文としてご提出下さい。なお、主論文、副論文ともに、要旨をご提出下さい。

- 応募に当たって提出いただいた書類は一切返却いたしません。
- 前年以前と同テーマでの応募は選考対象外となります。
- 応募申請書・論文は日本語で書かれたものに限定します。
- 自薦・他薦は問いません。他薦の場合、推薦文を添付して下さい。

3. 応募期間

2020年5月8日（金）から 2020年6月30日（火） 【当日消印有効】

【裏面へ続く】

4. 授賞対象者の決定

授賞対象者は、提出書類に基づいて、運営委員会の審査により決定します。

5. 授賞対象者の発表

2020年8月末までに、直接本人宛通知します。

6. 顕彰金

授賞対象者に対し、顕彰金50万円を贈呈します。

7. 授賞式

2020年9月開催の語彙研究会大会で授賞式を行います。

8. 申込み及び問合せ先

<公益信託 田島毓堂語彙研究基金事務局>

〒164-0001 東京都中野区中野 3-36-16

三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課

田島毓堂語彙研究基金担当

Tel : 0120-622372 (フリーダイヤル)

(受付時間 平日9:00~17:00 土・日・祝日等を除く)

E-mail: koueki_post@tr.mufg.jp

(メール件名には基金名を必ずご記入下さい)

「公益信託 田島毓堂語彙研究基金」学術賞(田島毓堂賞)応募申請書

公益信託 田島毓堂語彙研究基金 年 月 日
 受託者三菱UFJ信託銀行株式会社 殿

この応募申請書および添付した資料に記載されている事項は、学術賞の授賞対象者の選考等、当公益信託の運営に必要な範囲で、当公益信託の運営委員・信託管理人・委託者が取得・利用すること、また、授賞が決定した場合は、氏名・所属先等の情報が主務官庁へ提出されることについて、同意の上応募します。

(ふりがな) 氏名	(印) (年 月 日生)
所属先・職名	
現住所	(〒 -) 電話() FAX()
連絡先	(〒 -) 電話() FAX()
e-mail アドレス	

応募者略歴

年 月	事 項

受託者は、個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、応募者の個人情報を、公益信託業務を遂行するために必要な範囲内に限定して利用いたします。

研究経歴

(これまでの研究テーマなどについて簡単に)

(This area is currently blank for entering research history.)

提出業績

()主論文1点 ()主論文1点と副論文1点 ()主論文1点と副論文2点
(当てはまるものに○を)

提出業績が論文の場合 《主論文のコピーは必ず提出。副論文の提出は任意》	主論文	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ 出版年月日
	副論文1	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ 出版年月日
	副論文2	タイトル 誌名・巻号 掲載ページ 出版年月日

(学術賞)

主論文の要旨と、学術的に独創的な点(枠内に1,500字以内で記入)

(学術賞)

副論文の要旨(枠内に800字以内で記入)

(学術賞)

2020
年度

コスメトロジー研究助成

■ 公募要領 ■

KOSÉ
COSMETOLOGY
RESEARCH FOUNDATION

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団

1. 助成の趣旨

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団(旧コスメトロジー研究振興財団)は、コスメトロジー(化粧品学)の進歩・発展に寄与する独創的研究への支援を行いながら、この研究領域の体系化を目指して活動を進めてまいりました。

コスメトロジーは、自然・人文・社会三科学にまたがる学際的な研究領域にあり、幅広い学問分野の研究者が集い融合することで発展していくものといえます。

本助成事業では、様々な専門分野の研究者にコスメトロジー研究への参画を呼びかけ、人々の健康や美容の増進に役立ち、美しく豊かな生活の実現への貢献が期待される研究課題に対して助成を行います。

2. 助成課題

コスメトロジー又は関連する諸分野の基礎研究や応用研究(萌芽的研究を含む)で、以下の3分野のいずれかに該当する個人若しくはグループによる研究課題を対象とします。

第1分野 素材、物性に関する分野

第2分野 生体作用、安全性に関する分野

第3分野 精神、文化に関する分野

第3分野は幅広い分野からの応募に期待しています。

感性工学、生理心理学、医療・看護・福祉関連分野、社会学、比較文化学、芸術論、マーケティング論など

3. 応募資格

- (1) 日本国内の研究機関に所属する研究者で、下記の推薦を受けた者としてします。
 - ① 教育機関の場合は所属長(学長又は研究科長、学部長、研究所長に相当する職位)
 - ② ①以外の公的な機関・学会・団体の場合は代表者
- (2) 同じ推薦者による応募数に制約はありませんが、原則として同一研究機関に対し1課題の助成となります。
- (3) 申請者がすでに本助成を受けている場合は、その最終の研究報告書が提出されるまで本助成への新たな応募はできません。

4. 助成金および助成期間

- (1) 1件あたりの助成金額は200万円又は100万円、50万円で、採択時に選考委員会が裁定します。本年度の助成総額は5,500万円です。
- (2) 助成期間は1年又は2年。助成期間の終了日(研究報告書の提出期限)は、助成金交付日(2020年12月)から1年又は2年経過後の3月末日とします。この日以前に終了する研究計画も可とします。
- (3) 助成金は、原則として所属会計機関に納付します。個人口座及び海外口座への振込はできません。

5. 応募方法

- (1) 当財団ホームページ (<https://www.kose-cosmetology.or.jp>) の助成金申請Web登録システムのページに掲載した手順に沿って応募してください。
- (2) 応募にはホームページ上での登録、アップロードだけでなく、申請書一式を書面にて送付してください。その際、関連論文を添付が必要です。
- (3) 応募受付期間は、2020年5月7日(木)～7月10日(金)(必着)です。送付先は最終頁をご参照ください。

6. 選考方法

- (1) 当財団の選考委員会において選考し、同委員会の答申に基づき理事会において正式決定します。採否の結果は、2020年10月中旬に申請者および推薦者にご連絡します。
- (2) 審査の状況や採否の理由についての照会には回答いたしません。また、応募書類は採否に関わらず返却いたしません。

7. 助成採択者の義務

- (1) 助成金贈呈式を2020年11月25日(水)に東京都内にて開催しますのでご出席ください。
- (2) 助成期間終了時(助成期間2年では中間年も含む)に、財団所定の書式で使途報告書及び研究報告書をご提出いただきます。なお、最終の研究報告書は、本財団が刊行する研究報告集に掲載するとともに、財団ホームページで公表します。
- (3) 採択決定後、研究課題や登録の内容に重要な変更が生じた場合には、速やかに財団に報告してください。
- (4) 助成期間中に本財団関係者が助成採択者を訪問して、計画の進捗状況を確認させていただくことがありますのでご対応をお願いします。

8. 研究成果の取り扱い

- (1) 研究成果を外部発表する場合には、「コーセーコスメトロジー研究財団、英名：KOSÉ Cosmetology Research Foundation」の助成によることを明示してください。また、刊行物に掲載した場合には、その写しを財団に提出してください。
- (2) 研究成果に基づく特許または実用新案の出願に関して、本財団は権利を主張しません。

9. 個人情報等の取り扱い

- (1) 個人情報は選考や採否連絡など助成関連の業務に限定し使用します。
- (2) 法令等の定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供することはありません。
- (3) 採択された助成に関する情報(氏名、所属、研究課題等)は、財団の事業報告書、研究報告集、ホームページ、表彰・贈呈式、記念誌等にて公表します。

コーセーコスメトロジー研究財団の助成プログラム

本財団は、コスメトロジー研究に意欲的に取り組む研究者に向けて、下記の助成プログラムを実施しています。

- コスメトロジー研究助成
- 大学講座研究助成
- 国際交流助成
- 学術集会支援助成

各プログラムの概要や応募方法は当財団ホームページをご参照ください。

申請書の提出先・連絡先

公益財団法人 コーセーコスメトロジー研究財団

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目5番17号 八重洲香川ビルディング4階

TEL 03-6860-2190

FAX 03-6860-2192

E-mail office@kose-cosmetology.or.jp

<https://www.kose-cosmetology.or.jp>

研究助成のご担当者様へお願いです

— やずや食と健康研究所は若手研究者を対象とした研究助成に力を入れてます —

2020年度 研究助成「応募要項」の送付について

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

やずや食と健康研究所では、科学研究を通して「食べること・生きること」の意味をより明確にし、健やかな体づくり・心づくりに貢献していきたいと考えております。その一環として、2007年より「食と健康に関する科学研究」に対して、“研究助成活動”を行っております。

昨年度より引き続き“チャレンジ部門”は応募者と指導者のペアでの応募とし、若手研究者と優秀な指導者の双方を支えてまいります。研究者を目指す若手の育成に尽力いただく指導者には、モチベーションと責任感を高めていただくためにも指導料をお渡しいたします。また、“キャリアアップ部門”は50歳未満の研究者・研究グループを対象とし、どちらの部門も意欲ある研究者への助成に力を入れてまいります。

そこで、弊研究助成に関する資料を送付いたしますので、内容をご確認のうえ、担当者様へお渡しいただくか、もしくは若手研究者の方にご覧いただきやすいところへポスターを掲示していただけないでしょうか。なお、学内への立ち入り制限がある場合は、メールなどで広く周知いただけますと幸いに存じます。

助成研究応募期間は、2020年6月16日(火)～7月16日(木) (17時締切)

でございます。受付は弊研究所ホームページ (<http://yazuken.jp/>) 内の専用フォームのみとさせていただきます。例年より応募期間を前倒ししておりますので、ご留意いただけますと幸いです。応募方法詳細や過去助成研究例は弊研究所ホームページにてご覧いただけます。

最後までお読みいただき深謝いたします。今後とも、弊研究所並びに弊研究所助成活動へのご理解・ご支援のほど、何卒よろしくごお願い申し上げます。皆様どうぞお身体に気を付けてお過ごしくださいませ。

謹白

2020年5月吉日

やずや 食と健康研究所
事務局 中 美絵
〒815-8686
福岡県福岡市南区那の川 1-6-14
TEL : 092-533-1520
Mail : info@yazuken.jp
HP : <http://yazuken.jp/>



食べることは、生きること

やずや 食と健康研究所

助成研究募集のお知らせ

「やずや 食と健康研究所」では、食品・食物・食生活習慣と健康に関する研究、および、社会活動に対し最大100万円の助成をしております。

募集期間

2020年6月16日(火)～7月16日(木) 17時締切(時間厳守)

募集部門

「チャレンジ部門」および「キャリアアップ部門」
(詳細は右記および別紙参照)

応募方法

「やずや 食と健康研究所」ホームページ内の助成研究募集要項より研究計画調書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、申込みフォームからご応募ください。

※なお、「チャレンジ部門」と「キャリアアップ部門」の併願は認めておりませんのでご了承ください。

やずや 食と健康研究所 ホームページ

<http://www.yazuken.jp>



※スマートフォンのみ対応

お問い合わせ

やずや 食と健康研究所 事務局 (担当：中、^{なか}上田、^{うえだ}大場、^{おおば})

・TEL : 092-533-1520 ・E-mail : info@yazuken.jp

月～金 9:00～18:00 (土・日・祝休)

※電話番号はお間違いないようお願いいたします。

あなたの夢を応援します！

「成功率の高い助成研究申請書の書き方」を
公開中！！

presented by

東京大学 ^{さ さ き}佐々木 ^{さとし}敏 教授

〈やずや食と健康研究所 評議委員〉



資料はこちら



※無断転載・複製・配布行為はご遠慮ください。

チャレンジ部門

助教・助手・講師・大学院生 大歓迎

助成対象は、**35歳未満**の研究者、大学院生、研究グループ。
資格・役職は問いません。
ただし、特定の機関から助成を受けての研究の経験がないこと、
また日本語でのコミュニケーションが可能であることを条件とします。
最大助成金額は**50万円**です。
チャレンジ部門は、将来研究者を目指す若手の育成・助成を
目指して設立しました。そのため、期待できる成果のみならず、
独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価します。

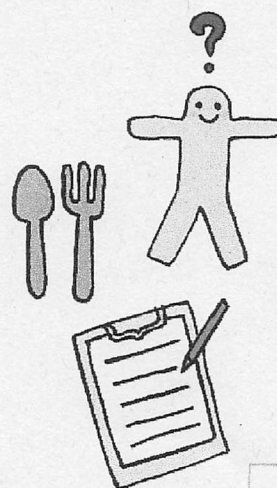


NEW

キャリアアップ部門

助教・講師・准教授 大歓迎

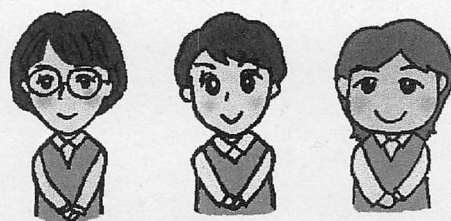
さまざまな食品・食物・食生活習慣と健康との関わりに
焦点を当てた研究を募集します。
助成対象は、**45歳未満**の研究者、研究グループ。
同時期に他の機関から助成を受けていないこと、日本語での
コミュニケーションが可能であることを条件とします。
50万円、100万円のうち、研究計画に沿った希望助成金額を
明記して応募してください。
※ただし、同一の研究テーマにて複数の助成への応募は
受け付けません。



やずや 食と健康研究所とは

私どもは、株式会社やずやが運営する研究助成機関で、
研究を通して「食べること・生きること」の意味をより
明確にし、健やかな体づくり・心づくりに貢献することを
理念に、2007年に設立しました。
以来、理念に合致する研究への助成をメインに活動して
おります。

数多くのご応募
お待ちしております！



やずや食と健康研究所 2020年度助成研究募集要項

	学部・研究科・研究センター等（応募者及び指導者の所属）	学部・研究科・研究センター等（所属）
各部門について	<p>研究者を志す若手を増やし育成するためには、同時に優秀な指導者を支える仕組みが必要であると考えた。</p> <p>指導者主体の研究を手助けするのではなく、優秀な指導者のもと、若手研究者が自ら適切な計画を立て遂行する。これにより、若手研究者が意義のある研究を行うことができる。</p> <p>さらに、このチャレンジ部門では、指導者に指導料を支給することで若手研究者育成に対するモチベーションと責任感を高めることもめざす。</p>	<p>研究を論文化して世に出すことで、研究の意義は果たされる。</p> <p>このキャリアアップ部門では、研究者のさらなるスキルアップを目的とし、有意義な研究を計画・遂行することはもちろん、論文投稿を原則必須とする。</p>
主な対象者	<p>【応募者：若手研究者】 過去にいずれの研究助成機関からも助成（科研費を含む）を受けた経験がない研究者（例）助教、助手、講師、大学院生。現場で働きながら研究する管理栄養士などの実務家。</p> <p>【指導者】 若手研究者が研究を円滑に計画・遂行できるよう、適切な指導ができる研究者。</p>	<p>1回以上の研究助成を受けた経験（当研究所以外の助成機関も含む）があり、キャリアアップを考えている中堅研究者（例）講師、助教、准教授など</p>
応募資格	<p>【応募者の年齢】 45歳未満（応募申込期限：2020年7月16日時点）の者。資格・役職は問わない。</p> <p>【応募者の助成経験】 特定の機関から研究助成（科研費を含む）を受けての研究を行った経験がないことを条件とする。</p> <p>【応募者に関して：その他】 報告・論文作成など日本語でのコミュニケーションが可能なることを条件とする。 また、チャレンジ部門は、将来研究者を目指す若手の育成・助成を目指すものである。そのため、最終的に論文投稿を推奨する。</p> <p>【指導者】 年齢、役職、助成経験等は問わない。応募者を直接に指導する者に限る。 なお、応募者と異なる所属でも構わない。</p>	<p>【年齢】 50歳未満（応募申込期限：2020年7月16日時点）の研究者。</p> <p>【助成経験】 1回以上の研究助成経験があることを条件とする。ただし、同時期（2020年12月～）に同テーマの研究で他機関から助成を受ける場合は応募不可。</p> <p>【その他】 報告・論文作成など日本語でのコミュニケーションが可能なることを条件とする。 また、最終的に論文投稿を原則とする。</p>
研究テーマ	<p>大テーマ：「食と健康」 小テーマ：①「食の安全」 ②「食と予防医療」 ③「食と運動」 ④「食と生活」 ⑤「食と社会」 ⑥「食と食育」 ⑦「食と文化」 ⑧「食と健康にかかわる歴史」 ⑨「その他」</p> <p>さまざまな食品・食物・食生活習慣と健康とのかわりに焦点を当てた研究を募集する。 物質研究（食品中の特定物質など）ではなく、食べ物を食べている人々やその生活に焦点を当てた研究で、実際の生活の中で食品・食物・食生活と健康との関係を明らかにする「ヒトを対象とした研究」が望ましい。分子生物学的・化学的テーマを主とする研究に関しては、対象外とする。 期待できる成果のみならず、独創性および熱意のある萌芽的研究を主に評価し、助成対象を決定する。</p>	
応募に際しての注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ■研究は応募者が主体となって進めることを条件とする。 ■指導者1名を必須とする。なお、指導者には指導料として一律5万円を、助成費とは別に助成開始時に支給する。 ■当研究所ホームページ内で公開している記入例（研究計画書【書き方のコツ】）応募用紙の書き方・ポイント）を参照すること。 ■申告に虚偽があった場合には、助成金の返還を求める場合がある。 ■特定の機関から助成を受けていたにも関わらず、申告に虚偽があった場合には、助成金の返還を求める場合がある。 ■当研究所が要求する研究業績とは、『既に発表された論文』のことであり、査読や教科書等への研究業績の一部記載、および学会発表等は含まないものとする。 ■研究業績として、実際には発表されていない論文を、研究業績として記載すること、発表論文の著者名を一部削って記載すること、論文以外の書籍等への文書掲載を業績とすることは禁止する。 ■研究テーマと研究内容とが著しく乖離したものや書類に不備があるものについては、審査されないで注意すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究は応募者が主体となって進めることを条件とする。 ■当研究所ホームページ内で公開している記入例（研究計画書【書き方のコツ】）応募用紙の書き方・ポイント）を参照すること。 ■申告に虚偽があった場合には、助成金の返還を求める場合がある。 ■当研究所が要求する研究業績とは、『既に発表された論文』のことであり、査読や教科書等への研究業績の一部記載、および学会発表等は含まないものとする。 ■研究業績として、実際には発表されていない論文を、研究業績として記載すること、発表論文の著者名を一部削って記載すること、論文以外の書籍等への文書掲載を業績とすることは禁止する。 ■研究テーマと研究内容とが著しく乖離したものや書類に不備があるものについては、審査されないで注意すること。
募集期間	2020年6月16日（火）～7月16日（木）（17時必着締切） ※本期間中を、研究計画調書の受付期間とする。	
結果発表	2020年11月初旬（助成評議委員会が審査、選定する）	
助成研究期間	2020年12月初旬より1年間、2年間の助成年限より選択する。 ただし、助成研究期間とは、すべての研究参加者データの解析を終了させる期間を意味する。	
助成金額	<p>最大50万円・最大2年を上限とし、それに見合った金額で研究計画をたてて申請すること。 ※同一の研究テーマにて、複数の応募は受け付けない。 ※論文の校正費用や投稿費用は含めない。 なお、論文受理者（筆頭著者のみ）には審査の上、当研究所規定を満たした場合に「論文支援金」を別途贈呈する。 応募の際に、論文作成の意思があるか明記すること。</p> <p>【指導者への指導料について】 一律5万円を助成費とは別に助成開始時に支給する。</p>	<p>最大2年を上限とし、(1) 50万円以下 (2) 51～100万円のうち、該当する希望助成金額の番号（(1)～(2)）を明記の上、応募すること。 ※同一の研究テーマにて、複数の応募は受け付けない。 ※論文の校正費用や投稿費用は含めない。 なお、論文受理者（筆頭著者のみ）には審査の上、当研究所規定を満たした場合に「論文支援金」を別途贈呈する。</p>
応募方法	「研究者の皆様への個人情報保護と取り扱いについて」に同意したのち表示される入力画面に、必要事項を入力の上、「研究計画調書（チャレンジ）.doc」を添付すること。	「研究者の皆様への個人情報保護と取り扱いについて」に同意したのち表示される入力画面に、必要事項を入力の上、「研究計画調書（キャリアアップ）.doc」を添付すること。
成果報告	<p>◇助成研究成果の当研究所への報告 研究結果は、助成期間終了の翌年1月中旬までに当研究所指定の報告用紙で提出すること。 ※複数年度での助成が採択された場合、各年毎に指定の用紙にて中間報告書を提出すること。 ※採択された研究計画調書と大きく異なる内容での報告があった場合、内容によっては助成金返還や報告書の再提出を求めることがある。また、助成金の使用用途について研究計画調書から変更が生じる場合は、事前申告のうえ許可のあった項目のみに助成金を使用できるものとする。</p> <p>◇助成研究成果の発表 論文発表および学会などにおける研究成果の発表に際しては、「やずや食と健康研究所」の助成を受けた旨を記載すること。なお、助成終了後に提出したく報告書については、ホームページ内で発表を行う。</p>	

松下幸之助国際スカラシップ

人文科学・社会科学領域

2020年度 募集要項



募集人員	5名程度(学部生) 15名程度(大学院生・研究機関在籍者)
応募書類・受付期間	2020年6月1日(月)~7月27日(月)
選考方法	9月中旬(書類選考) 9月28日(月)(面接選考) ※書類選考合格者のみ
採否通知	10月中旬

公益財団法人

松下幸之助記念志財団



松下幸之助国際スカラシップ

「諸外国との相互理解による国際社会への貢献」に
寄与する研究(人文科学・社会科学の領域)を志す海外留学を
以下の2カテゴリーで助成します。

カテゴリー

1

学部生の留学助成

カテゴリー

2

大学院生・研究機関在籍者の留学研究助成

- ・世界的な視野に立った研究
- ・諸施策の提案、調査研究活動

研究・留学帰国後のスカラシップOBの助成・特典について

特典

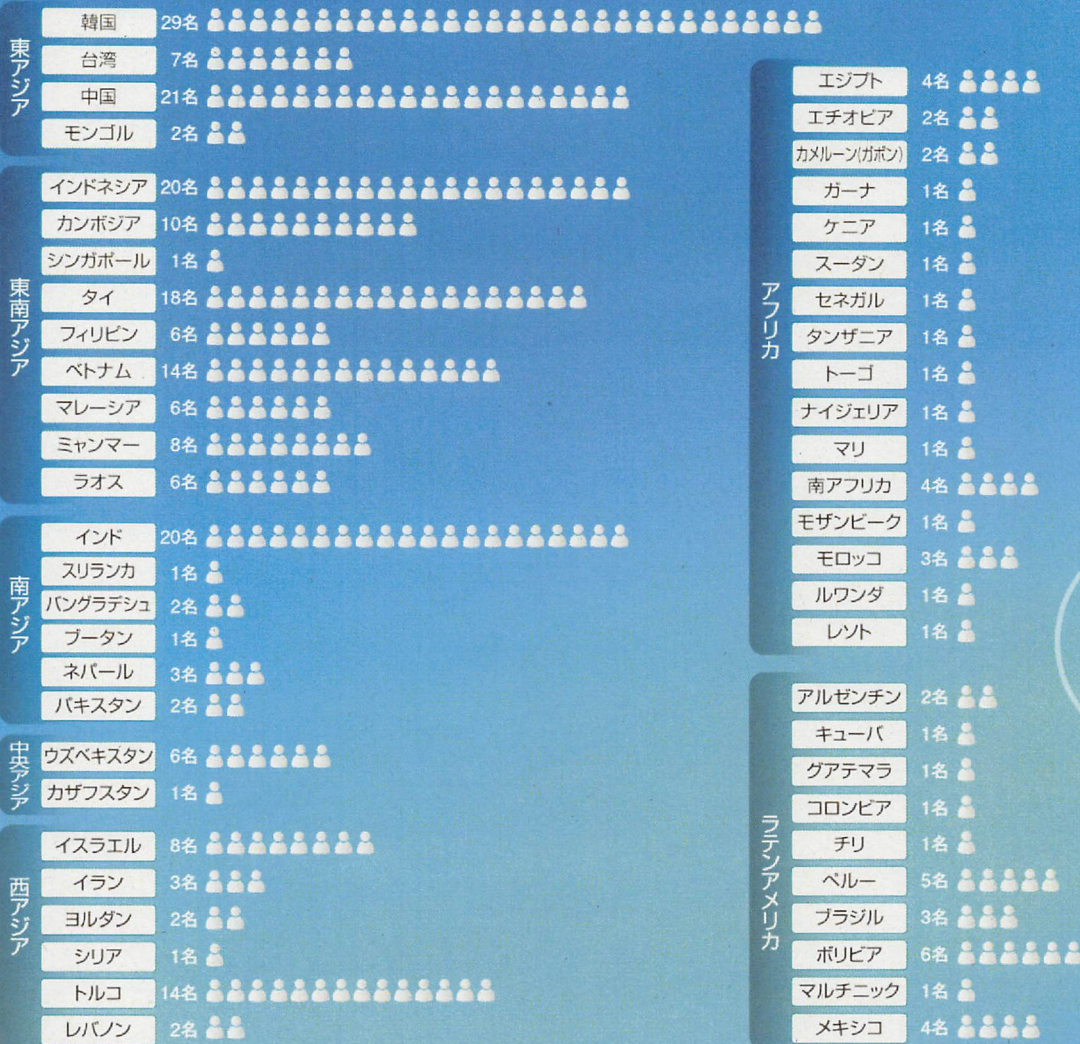
1

松下幸之助国際スカラシップフォーラム
での発表のチャンス!

- スカラシップでの留学研究成果を発表するフォーラムに参加
- 毎年10月に東京大学弥生講堂にて開催
- 発表者を対象にプレゼンテーション研修会で応援



助成対象者 国別実績



助成対象者
累計
264名

特典
2

ブックレット出版に
応募のチャンス!

- 留学研究成果をブックレットとして出版する応募権



ブックレットとして出版

特典
3

出版助成に応募の
チャンス!

- 留学研究成果を単著の学術書として刊行



松下正治記念学術賞として出版

03 選考方法

選考方法

当財団の選考委員会において、スカラシップの目的に合致する有為な人材を厳正かつ公平な選考にて決定します。

- 1次 書類選考(9月中旬に1次選考結果を通知します。)
- 2次 面接選考(時期:9月28日(月)、対象:1次合格者、会場:京都)

採否の通知

「採否」の結果は、10月中旬に電子メールにて通知します。

結果の理由に関するお問合わせには応じかねますのでご了承ください。

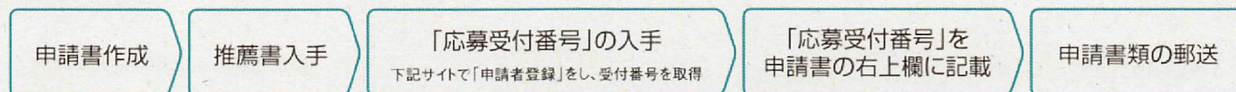
04 応募手続

申請書の入手方法

申請書は、財団のホームページに掲載していますので、ダウンロードしてご使用ください。

- 1 学部生用 http://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2020_mk_shin_gakubu.docx
- 2 大学院生・研究機関在籍者用 http://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2020_mk_shin.docx

申請方法



申請者登録サイト: <https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/system/src/form/application.php?mode=3>

- ・下記申請書類(原本一式)を当財団 大阪事務所「松下幸之助国際スカラシップ」係あてに郵送してください。
- ・パソコン(Word)をご使用いただき直接申請書に必要事項を打ち込んでください。
- ・フォントは「12」以上(原則)で記入(但し、No.1 奨学金申請書は除く)してください。
- ・申請時には指導教員 或いは適切と思われる関連分野の専門家(1人に限る)の推薦書を原則として申請書と同封にて送付ください。

申請書類

	1 学部生	2 大学院生・研究機関在籍者
No.1	奨学金申請書	
No.2~No.3	留学計画書	研究計画書
No.4	経費計画書	
No.5	自薦書	
No.6	推薦書 ※指導教員、或いはそれに準ずる者の推薦	

注意事項

- 記載紙面の追加、規格外の紙面の使用および資料添付は受付いたしません。
- 極端に小さな文字を使い字数の多い(縮小コピー貼付も同様)申請書類は受付いたしません。
- 提出いただいた申請書類等は、返却いたしませんので必ずコピーを保管してください。
- 申請書類および推薦書の到着後1週間以内に受領連絡いたしますので、未着の場合は照会願います。
- 申請書類が著しく不備な場合(乱雑な文字も含む)選考対象外になることがあります。

応募書類受付期間:2020年6月1日(月)~7月27日(月)必着

ご応募のお問い合わせは原則としてEメール ajisuka@gg.jp.panasonic.com までご連絡ください。
ホームページの「FAQ」も事前にご確認ください。

03 選考方法

選考方法

当財団の選考委員会において、スカラシップの目的に合致する有為な人材を厳正かつ公平な選考にて決定します。

- 1次 書類選考(9月中旬に1次選考結果を通知します。)
- 2次 面接選考(時期:9月28日(月)、対象:1次合格者、会場:京都)

採否の通知

「採否」の結果は、10月中旬に電子メールにて通知します。

結果の理由に関するお問い合わせには応じかねますのでご了承ください。

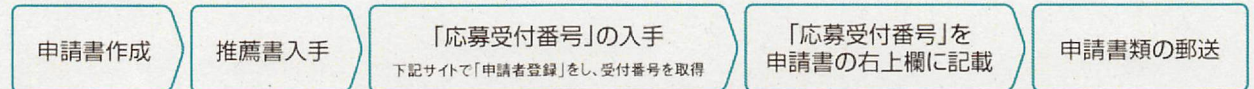
04 応募手続

申請書の入手方法

申請書は、財団のホームページに掲載していますので、ダウンロードしてご使用ください。

- 1 学部生用 http://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2020_mk_shin_gakubu.docx
- 2 大学院生・研究機関在籍者用 http://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/works/jpn/data/2020_mk_shin.docx

申請方法



申請者登録サイト: <https://matsushita-konosuke-zaidan.or.jp/system/src/form/application.php?mode=3>

- ・下記申請書類(原本一式)を当財団 大阪事務所「松下幸之助国際スカラシップ」係あてに郵送してください。
- ・パソコン(Word)をご使用いただき直接申請書に必要な事項を打ち込んでください。
- ・フォントは「12」以上(原則)で記入(但し、No.1 奨学金申請書は除く)してください。
- ・申請時には指導教員 或いは適切と思われる関連分野の専門家(1人に限る)の推薦書を原則として申請書と同封にて送付ください。

申請書類

	1 学部生	2 大学院生・研究機関在籍者
No.1	奨学金申請書	
No.2~No.3	留学計画書	研究計画書
No.4	経費計画書	
No.5	自薦書	
No.6	推薦書 ※指導教員、或いはそれに準ずる者の推薦	

注意事項

- 記載紙面の追加、規格外の紙面の使用および資料添付は受付いたしません。
- 極端に小さな文字を使い字数の多い(縮小コピー貼付も同様)申請書類は受付いたしません。
- 提出いただいた申請書類等は、返却いたしませんので必ずコピーを保管してください。
- 申請書類および推薦書の到着後1週間以内に受領連絡いたしますので、未着の場合は照会願います。
- 申請書類が著しく不備な場合(乱雑な文字も含む)選考対象外になることがあります。

応募書類受付期間:2020年6月1日(月)~7月27日(月)必着

ご応募のお問い合わせは原則としてEメール ajisuka@gg.jp.panasonic.com までご連絡ください。
ホームページの「FAQ」も事前にご確認ください。

2020年5月

各位

公益財団法人
りそなアジア・オセアニア財団

りそなアジア・オセアニア財団 助成事業公募のご案内

「2021年度 調査研究助成／国際学術交流助成／出版助成」

「2021年度 りそな環境助成」

拝啓 新緑の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、弊財団活動につきまして格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

現在COVID-19感染症により、社会の分断や差別がより一層進む危機に直面しています。それを阻止する為にも、財団が求めてきた「国際交流」「相互理解」「協働」を拡げることが極めて重要であり、今年はその使命をより強く胸に刻み活動をおこなう所存です。引き続き、ご支持ならびにご協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年度公募する2021年度助成事業の応募要項を送付させていただきます。(今回の環境助成については、募集事業範囲の見直しを実施しています。)是非ニーズのある方へお知らせ頂きますとともに、貴組織・団体のHPやメール等にて幅広くご案内頂ければ幸いです。なお応募要項記載内容は、応募書類とともに弊財団HPへも掲載しております。

末筆ではございますが、皆さまの益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

敬具



公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

RESONA The Resona Foundation for Asia and Oceania

〒541-0051 大阪市中央区備後町2-1-8 備後町野村ビル

TEL: 06-6203-9481 Email: info@resona-ao.or.jp

(担当: 武部/杉浦)

2021年度 助成事業

調査研究助成

国際学術交流助成/出版助成

応募要項

テーマ

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野(社会、文化、歴史、政治、経済等)の調査・研究活動や国際会議等の国際交流活動、出版等の啓発・広報活動等への助成

助成の趣旨

当財団は、「人と人のふれあい」を国際交流の原点としつつ、我が国とアジア・オセアニア諸国との相互理解の増進に寄与していくことを目的として設立されました。近年人口減少期に突入した我が国にとって、近隣であるアジア・オセアニア諸国の人々との関係は交流の時代から共存共栄への時代へと変わりつつあり、財団の果たすべき役割も重要度が更に増しているものと認識しております。

なかでも助成事業は、設立時より30年継続して行ってきたメイン事業であり、アジア・オセアニア地域における、人文・社会科学の学問領域において、できるだけ広い分野を対象とし、なかなか助成の手が届きにくいような事業の発掘や、時代の変化に伴う新たな研究対象へも支援しております。特に当制度の特徴として、調査研究費が得られにくい環境にある若手研究者への助成へ力点を置いており、アジア・オセアニア地域との相互理解と更なる関係深化へ未来志向で貢献していきたいと考えております。

応募期間

2020年6月8日～2020年7月31日(必着)



公益財団法人

リそなアジア・オセアニア財団

RESONA

調査研究
助成
(個人研究)

<助成対象>

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の人文・社会科学分野の調査・研究活動に対する助成

<応募資格>

(1)[※]日本の大学もしくは研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

(2)原則として2021年4月1日現在で年齢が満39才以下の方

<助成期間>

1年もしくは[※]2年(事業開始日:2021年4月1日)

※期間2年で助成採択された場合は、2年目も申請書を提出して選考を受けていただきます。

<助成金額>

50万円～100万円(万円単位)

⇒ 期間1年に対する金額であり、案件毎に査定します。

～採択状況～	申込件数	採択件数	採択率
2020年度	85件	15件	17.6%
2019年度	78件	14件	17.9%
2018年度	84件	17件	20.2%

調査研究
助成
(共同研究)

<助成対象>

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の人文・社会科学分野の調査・研究活動に対する助成

<応募資格>

(1)[※]日本の大学もしくは研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

(2)原則として2021年4月1日現在で、申込者(代表者の)年齢が満39才以下の方

<助成期間>

1年もしくは[※]2年(事業開始日:2021年4月1日)

※期間2年で助成採択された場合は、2年目も申請書を提出して選考を受けていただきます。

<助成金額>

50万円～200万円(万円単位)

⇒ 期間1年に対する金額であり、案件毎に査定します。

～採択状況～	申込件数	採択件数	採択率
2020年度	11件	0件	- %
2019年度	11件	2件	18.2%
2018年度	10件	2件	20.0%

国際学術
交流助成

<助成対象>

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の人文・社会科学分野に関する国際会議・シンポジウムの開催、および同分野の研究者交流に対する助成

<応募資格>

[※]日本の大学もしくは研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

<助成期間>

1年(2021年4月1日～2022年3月31日)

<助成金額>

50万円～200万円(万円単位) 金額は、案件毎に査定します。

～採択状況～	申込件数	採択件数	採択率
2020年度	11件	4件	36.4%
2019年度	16件	4件	25.0%
2018年度	15件	4件	26.7%

出版助成

<助成対象>

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の調査研究成果にかかる出版助成、および出版に準ずる広報活動への助成

<応募資格>

※日本の大学もしくは研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

<助成期間>

1年(出版物刊行期限:2022年3月31日)

<助成金額>

50万円～120万円(万円単位) 金額は案件毎に査定します。

～採択状況～

	申込件数	採択件数	採択率
2020年度	25件	2件	8.0%
2019年度	18件	2件	11.1%
2018年度	13件	2件	15.4%

下記事項を総合的に勘案し、採択可否を判断します。

選考基準

1. 研究課題や手法の新規性・独創性と当該分野の研究への貢献
2. 研究計画と調査準備の周到性、研究活動の実施可能性、研究調査経費の妥当性
3. 研究成果の国内外学会での発表、論文作成などの公開方針

助成金の 使途制限

助成金の使用は、助成対象事業の実施に直接必要となる経費とし、以下の費用は助成の対象となりません。

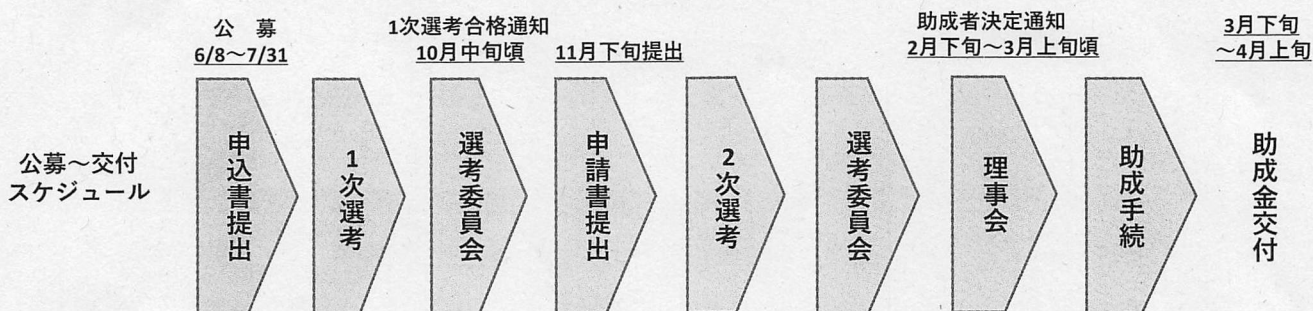
1. 営利を目的とした調査研究活動
2. 個人が一般的に使用するパソコン等機器類の購入費用
3. 学会等への出席に係る経費

受給者 の義務

助成金受給者は弊財団と『覚書』を締結し、これに基づき、助成期間中1年毎に中間報告書、活動内容要約、会計報告書を、終了後には活動完了届、活動報告書、活動内容要約、会計報告書をそれぞれ提出いただきます。

選考方法

1次選考: 申込書提出による書面審査 選考委員会にて合格者(2次選考者)を決定
2次選考: 申請書提出による書面審査 選考委員会にて助成案件候補を選出し理事会にて助成者決定



弊財団所定の「申込書」に必要事項を記入の上、弊財団宛書留便にてお送り下さい。

(書式は弊財団HPに掲載しております。ダウンロードして作成願います。)

URL https://www.resona-ao.or.jp/project/promotion_application.html

(注)送付の際は、「申込書(原本)」に「写し(A4)7部」(各部毎セットしたもの)

並びに「返信用封筒(角2号240x332 mm)120円切手貼付・返信先を明記」を同封願います。

応募方法

<応募期間>

2020年6月8日～2020年7月31日(必着)

<送付先>

公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団
〒541-0051 大阪市中央区備後町2丁目1番8号 備後町野村ビル7階
電話 (06)6203-9481 E-Mail : info@resona-ao.or.jp

留意事項

- ・提出いただいた「申込書」「申請書」等は、返却いたしません。
- ・採否結果の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねますので、ご了承下さい。
- ・過去に財団から助成を受けた方は、同じ区分の助成を再度受けることは出来ません。
- ・当該事業年度において、日本学術振興会の科研費を代表者として受けられることが決定した方は、原則として当財団助成金受領は辞退いただきます。

2020年度 助成決定事業（活動期間：2020年4月1日～2021年3月31日）

調査研究助成《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
オーストラリアにおける技術移民の支援策と差別化策 :457カテゴリビザの運用とロヒル人山開発事業にみる 日本社会への応用可能性の検討	小野塚 和人	神田外国大学 外国語学部 英米語学科・専任講師	350,000円
冷戦期東アジアにおける「境界」管理 ー大村収容所を中心にー	李 英美	一橋大学大学院 社会学研究科	500,000円
インド・北東部における第二次世界大戦の記憶 ー継承と観光開発をめぐる近年の動向	渡部 春奈	一橋大学社会学科 テリノ経済大学社会学科	500,000円
移民とホスト集団の異質的選好に関する実証研究 ー越境するミャンマー人の農村労働・結婚市場への参入ー	翟 亞蕾	信州大学 経法学部 講師	360,000円
フィリピンにおける米軍基地問題をめぐる政策決定過程と安全保障上の効果	大澤 傑	駿河台大学 法学部 助教	100,000円
英領ビルマにおける「人種/民族」・「宗教」をめぐる キリスト教的動態の諸相の解明:1860-1915	藤村 瞳	上智大学院 グローバルスタディーズ研究科 特別研究員	580,000円
近現代中国の地域研究と日本 ー1930-50年代における知日派の日本研究団体を中心に	高柳 峻秀	東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻 アジア科	1,000,000円
信念体系の形成と表出サイバー空間とリアルな空間を 行き来する現代インドネシアの若年層ムスリム	加藤 舞	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	720,000円
オスマン帝国におけるフランシスコ会の活動: クレシェヴォ修道院所蔵オスマン語文書群(18~19世紀)の分析から	佐治 奈通子	上智大学 アジア文化研究所	670,000円
インフォーマルな活動に対する法制度・規範の変容 ーマニラ首都圏における「盗電」を事例としてー	宮川 慎司	東京大学大学院 総合文化研究科	550,000円
第二次世界大戦後のラオスにおけるナショナリズムと連帯の可能性 :東南アジア、フランス植民地帝国を中心に	赤崎 真耶	東京外国語大学大学院 モンペリエ第三(ポール・ヴァレリー)大学	600,000円
法多元主義と清帝国ー成長満洲における法の実態を中心として	史 志强	東京大学大学院 法学政治学研究科	930,000円
地域の文化継承と発展を担う高齢者たち ー現代中国における西南少数民族の老人協会の現状と課題ー	黄 潔	愛知大学 国際中国学研究センター 研究員	750,000円
ホーンダミール編『名高き書簡 Nama-yi Nami』(1519年完成)の研究ー 工匠の社会的地位と韻文リテラシーの問題を中心にー	神田 惟	東京大学東洋文化研究所 特任研究員	600,000円
サンスクリット文献の批判的校訂テキスト作成のための 南インド・サンスクリット写本収集	眞鍋 智裕	早稲田大学 高等研究所 講師	700,000円
1960年代における中華民国政府の対日経済外交 ー国府外交の台湾化に関する再検証ー	森 巧	一橋大学大学院 社会学研究科	800,000円
ニュージーランドの先住民マオリの親族に関する知識の研究	神山 歩未	名古屋大学大学院 人文学研究科 博士研究員	650,000円
資本主義社会における宗教組織の経済倫理 ー現代タイ・タンマガイ寺ではたらく労働者の視点から	山田 実季	京都大学大学院 人間・環境学研究科	600,000円
ウズベキスタンにおける伝統的ムスリム社会の在り方の変容と その身分法制度への影響	江原 菜美子	名古屋大学 学術研究員	630,000円
「モンゴル人にとってラクダとは何か？」 ゴビ砂漠におけるラクダの多面的価値創造と牧畜文化の再構築:1940-2020	WU WUYUNGA	総合研究大学院大学 文化科学研究科	800,000円

調査研究助成《共同研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
中央アジア出土東ローマ帝国貨幣の基礎的調査	村田 光司	名古屋大学 高等研究院 特任助教	800,000円

国際学術交流助成

企画名	代表	代表者所属	助成金額
国際交流研究集会「東南アジアにおける博物館教育と資格制度」	山形 真理子	岡山理科大学 経営学部 教授	600,000円
The 4th International Workshop "Hate Speech in Asia and Europe : A Comparative Study"の開催	金 友子	立命館大学 国際関係学部 准教授	1,710,000円
東南アジアにおけるリビングヘリテージとカルチュラルランドスケープの 保存・活用・創成に関する国際会議	西村 正雄	早稲田大学 文学学術院 教授	1,770,000円
国際理解における歴史学の役割を考えるシンポジウム	小室 正紀	慶応義塾大学 名誉教授	800,000円

出版助成

著作物名	著作者	著作者所属	助成金額
『怒りの民族誌ーニューギニア高地における紛争・感情・社会秩序』の出版	深川 宏樹	兵庫県立大学 環境人間学部 准教授	1,200,000円
変動する伝統技術と社会:現代台湾における先住民・工芸・文化政策	田本 はる菜	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 博士研究員	1,200,000円

国際学術交流助成 合計 21件 13,190,000円
国際学術交流助成 合計 4件 4,880,000円
出版助成 合計 2件 2,400,000円

【助成事業（1990年～2020年）通算助成実績】

助成件数 532件
助成者数 342名
助成金額 584百万円

財団及び財団事業内容については、右QRコードより
動画にて確認できますので、
ご覧下さい。



2021年度

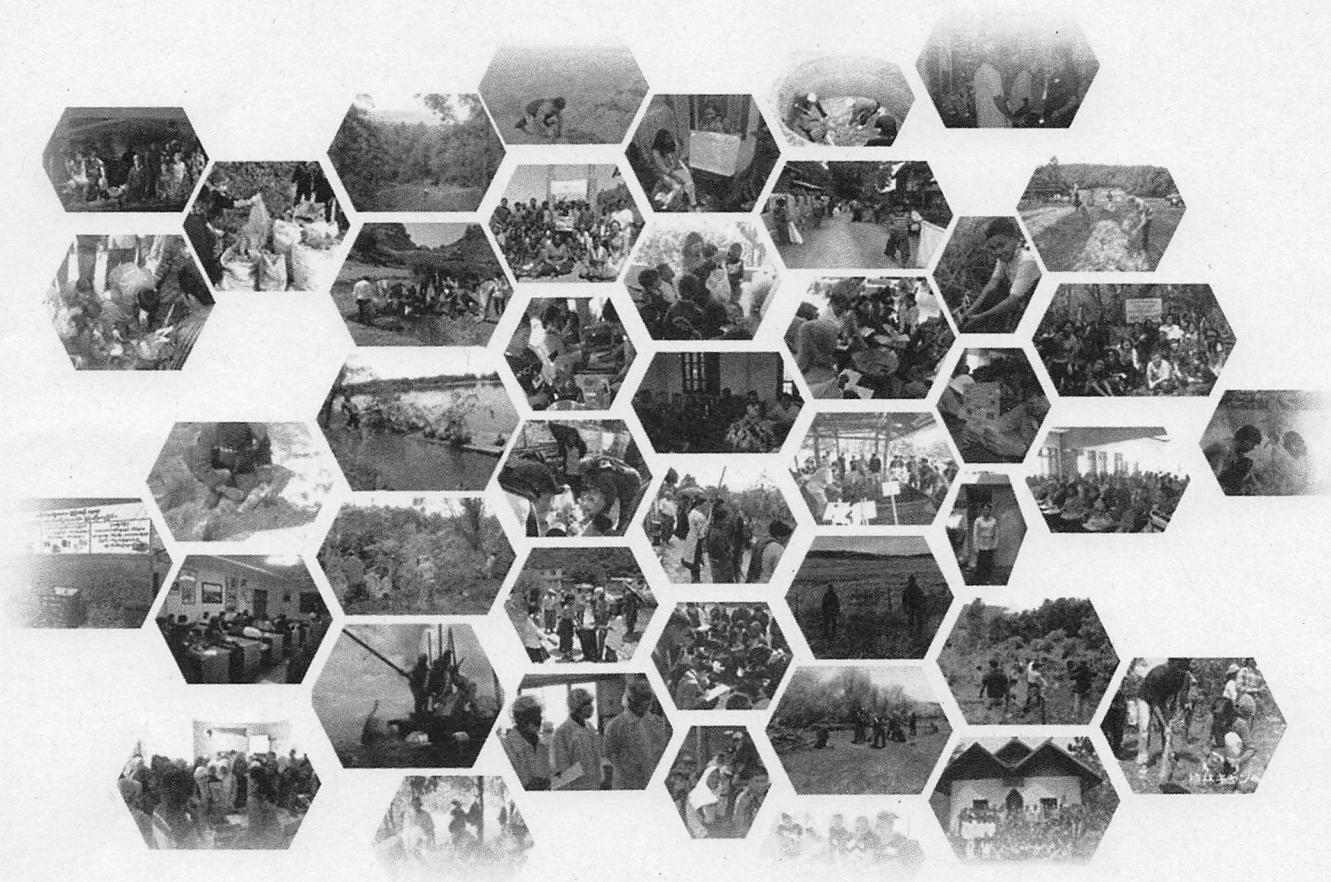
りそな環境助成

～自然と人とのつながりを求めて～

応募要項

応募期間

2020年6月8日～2020年8月31日（必着）



《助成実績》

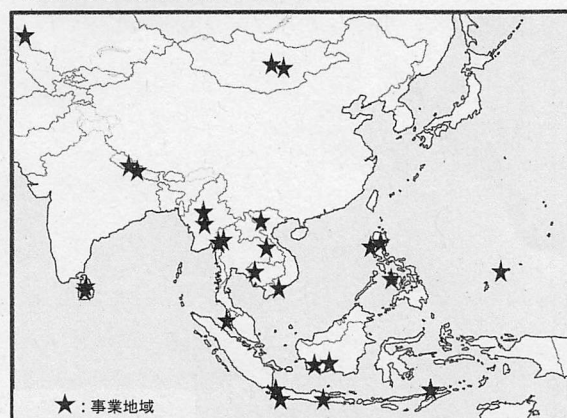
(2011年～2020年)

支援事業数 32件 / 支援総額 82百万円

《採択状況》

活動年度	応募件数 (新規)	採択数	採択率
2020年度	16件	4件	25.0%
2019年度	23件	5件	21.7%
2018年度	15件	3件	20.0%

《助成事業実施地域図》



公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

RESONA

<p>選考基準</p>	<p>下記事項を総合的に勘案し、採択可否を判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業全般の助成趣旨との相応性 ・事業内容の新規性、独創性と環境保全への貢献 ・事業計画の周到性、及び遂行可能性 ・事業計画における資金使途の妥当性 ・事業達成目標(成果)の具現性
<p>選考方法</p>	<p>1次選考:申請書提出による書面審査。選考委員会にて合格者(2次選考者)を決定。 2次選考:面接を実施し事業内容を質疑応答。 選考委員会にて助成案件候補を選出し理事会にて助成者決定。</p>
<p>公募～交付スケジュール</p>	
<p>助成金の使途</p>	<p>対象事業の実施に直接必要となる経費とします。 管理業務用パソコン等の機器類購入費用や、学会出席、調査・学術研究目的の支出は認めません。</p>
<p>受給者の義務</p>	<p>助成金受給者は当財団と『覚書』を締結し、これに基づき、助成期間中1年毎に中間報告書、活動内容要約、会計報告書を、終了後には活動完了届、活動報告書、活動内容要約、会計報告書をそれぞれ提出いただきます。 また、財団は当事業を助成受給者との協働作業と考えています。 事業開始後、当初計画どおり進まない状況に陥ったり、計画外の試みを実施したい場合などには、必ず財団へ連絡を入れ、状況共有と対応協議をおこなって下さい。</p>
<p>応募方法</p>	<p>財団所定の「申請書」に必要事項を記入の上、財団宛書留便にてお送り下さい。 (書式は財団HPに掲載しております。ダウンロードして作成願います。) URL https://www.resona-ao.or.jp/project/environment_application.html (注)送付の際は、「申請書(原本)」に「写し(A4)6部」(各部毎セットしたもの)並びに「返信用封筒(角2号240x332 mm120円切手貼付・返信先を明記)」を同封願います。 <応募期間> 2020年6月8日～2020年8月31日(必着) <送付先> 公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団 〒541-0051 大阪府中央区備後町2丁目1番8号 備後町野村ビル7階 電話 (06)6203-9481 E-Mail : info@resona-ao.or.jp</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提出いただいた「申請書」等は、返却いたしません。 ・2次選考面接(開催地:大阪)には、原則として申請者本人が出席すること。面接参加にかかる交通費等の費用は、自己負担となります。



RESONA



近年の急速な経済発展の裏側で、深刻な自然環境破壊が進むアジア・オセアニア地域。経済発展を支える銀行グループの一員として、財団はこの問題に向き合い、同地域の環境保全活動を支援しています。

「りそな(RESONA)」はラテン語で「共鳴する」という意味をもち、地域の(Regional)人々と共鳴し理解し合うことを掲げています。この理念のもと、支援事業の名称を「りそな(RESONA)環境助成」としました。

RE(Relation) SO(Social) NA(Nature)

アジア・オセアニア地域において、「人々が自然(Nature)と繋がり(Relation)共生する(Socialize)」

そして「地域の(Regional)人々と共鳴(Resona)する」活動へ、財団は助成を行います。

助成趣旨 「自然と人とのつながりを求めて」

当財団は、アジア・オセアニア諸国における環境事業（プロジェクト）をおこなう方へ助成を行っています。

環境事業は多岐にわたりますが、そのなかでも地道な小さな事業を応援してきました。環境問題は地球規模の大きな課題ですが、その解決はごく普通の人のちょっとした創意と工夫による活動の積み重ねで達成できると考えているからです。

10年の助成活動を経て、「つながり」を重視した活動に注目するようになってきました。

そもそも人と自然のつながりが切れたりゆがんできたりしたのが環境問題の発端です。自然とのつながりを見直すことは、地域の人の生活をまもり、生活の質の向上につながります。

さらに大切だと考えているのは、人とひと、そして地域と地域のつながりです。地域に根差した小さな活動は、どうしても影響が狭い地域に限定されてしまいがちです。しかし、ある地域での経験を別の地域につないでゆくことで、環境への思いが共鳴しあい、より広く大きな効果を生むことができます。地域と地域をつなげる事業、地域の小さな活動が大きく育つような事業に助成できたらと思っています。

環境事業選考委員長
阿部 健一

対象事業	<p>アジア・オセアニア地域において、現地活動者と協働して現地の環境問題解決へ取り組む草の根的な実践活動。実践活動とは、自然再生活動、自然環境保全活動、自然との共生活動、それらに付随する教育活動等で、自立的・持続的な活動への展開が見込めるもの。</p> <p>※事業内容が調査研究主体のものや、支出計画が海外出張費のみの事業は、助成対象としません。</p>
応募資格	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本において環境保全活動や国際協力活動を行う団体・会社・大学等に所属する者、もしくは海外で環境保全活動や国際協力活動を行う日本人。 2. 活動地域において事業遂行が可能な相応の活動経験と実績がある者、もしくは年齢が35歳以下で相応の活動経験等がある者の指導を受けることができる者。 3. 活動地域である現地において、当該事業活動の共同事業者（協力者）がいる者。 <p>※いずれの要件も満たしている必要があります。応募回数に制限はありません。</p>
助成期間	<p>1年～3年(事業開始2021年4月、年度単位)</p> <p>*複数年で採択された場合は、毎年申請書の提出を求めて選考を受けていただきます。</p>
助成金額	<p>助成期間1年につき100万円迄（万円単位）</p> <p>*助成金額は、案件毎に査定します。</p>

助成活動紹介

助成者：熱田 典子
 所属：(公社) アジア協会アジア友の会 副事務局長
 助成期間：2018年4月～2021年3月（3年間）活動中
 活動場所：ネパール バグワティ県シンドゥパルチョーク郡

地震被災地へバイオガスプラント建設による 森林及び環境保全と環境教育による 持続可能な地域づくりをめざした活動

【事業目的】

ネパールには化石資源がなく農村地域の主なエネルギーは薪であるため、森林破壊に歯止めがかからない状況。対応策としてバイオガスプラントを設置し、再生可能なエネルギー確保と環境保全活動を行う。また、子供たちに環境教育を実施し、未来につなげる力を育む活動を実施する。



助成者：永石 安明
 所属：(公財) オイスカ 事務局長
 助成期間：2019年4月～2022年3月（3年間）活動中
 活動場所：ミャンマーマグウェイ地域イエサジョ郡

ミャンマー中央乾燥地域における 青少年を対象とした植林活動と環境教育の推進

【事業目的】

ミャンマーの中央乾燥地では、厳しい気候条件と人口増加等に起因する薪炭林の過伐採のため森林減少など自然荒廃が進み、生物多様性の損失が課題となっている。このため、地域住民や青少年と共に森林保全、地域の水保全につながる森林再生や生物多様性の回復を目指すと共に持続的に取り組むため環境教育活動を行う。



2020年度助成事業（活動期間：2020年4月1日～2021年3月31日）

事業タイトル	代表者	代表者所属	助成金額(千円)
ラオスのコーヒー栽培地域における農業の多様化促進を通じた生態系保全	箕曲 在弘	東洋大学社会学部准教授/ NPO法人APLA 理事	590
地震被災地へバイオガスプラント設置による森林及び環境保全と環境教育による持続可能な地域づくりをめざした活動	熱田 典子	(公社) アジア協会アジア友の会 副事務局長	1,000
フィリピンの山村マリナオ村における、自然環境とアバカ・マクラメ編みとの調和による持続可能な村の暮らしの再生	河西 実	特非) フェア・プラス 常務理事・事務局長	1,000
ベトナム・メコンデルタにおける有機農業の実践と青少年への環境教育による環境保全型の地域づくり	伊能 まゆ	特非) Seed to Table 理事長	1,000
シンハラージャ森林におけるエコツーリズムを通じた環境保全	高橋 知里	特非) パルシック	1,000
アラルの森プロジェクト	石田 紀郎	特非) 市民環境研究所 代表理事	1,000
ミャンマー中央乾燥地域における青少年を対象とした植林活動と環境教育の推進	永石 安明	(公財) オイスカ 事務局長	1,000
ベトナム中部山間部での地域資源と在来知の活用による生態系保全、生計向上および社会的弱者層の支援に資する在地生業群の創発と展開	田中 樹	学校法人 常翔学園 摂南大学 農学部 教授	1,000
モンゴル国における生物多様性保全教育センターおよび栽培基地の構築	思 沁夫	大阪大学 グローバルイニシアティブ・センター 特任准教授	970
動物を通じて次世代の子どもたちが考えるボルネオの自然環境問題～ICTを利用したマレーシアと日本の子どもたちの対話型遠隔教育～	森井 真理子	特非) ボルネオ保全 トラスト・ジャパン 理事	1,000
ミャンマー・シャン州インレー湖周辺地域における水質浄化啓発活動「みんなで湖を守る」を形にするために	柴田 京子	特非) 地球市民の会	1,000

合計11件 10,560千円

白山市の教育

学校教育

小学校・中学校

生涯学習

青少年育成

公民館

文化施設

文化財

神社・仏閣

文化振興

化石調査

世界遺産への提案

スポーツ施設

スポーツ行事（大会日程）

教育・文化・スポーツ（ほか）

暁烏敏賞募集要項（第1部門・第2部門）

お問い合わせ

部署名：文化振興課 電話番号：076-274-9573 FAX番号：076-274-9546 E-mail：bunkashunkou@city.hakusan.lg.jp

暁烏敏賞

The Akegarasu Haya Prize


[English](#)>>




[>>入選論文\(第1部門・第2部門\)](#)

■募集要項(第1部門・第2部門)

[>>入選作文\(ジュニア部門\)](#)

募集内容	<p>第1部門 「哲学・思想に関する論文」 私たちの将来の生活に展望や示唆を与える研究論文、または哲人や思想家に関する評論、歴史学や民俗学や文学等の著作についての新しい解釈や評論など。</p> <p>ただし文章は、論旨が明快かつ独創的で、全体の構成が整っており、表現が明確で平易であること。（青少年にも「読める」論文が望ましい。）</p> <p>第2部門 「子どもの育成に関する論文・実践記録またはエッセイ」 幼児から若者までの育成を目的とした論文、実践記録またはエッセイ。</p> <p>テーマは、家庭・学校・スポーツ・文化活動・ボランティア・国際交流・子育て・非行防止・安全教育・いじめ・不登校など、その他、子どもの育成に関するもの。</p>
応募規定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 400字詰原稿用紙 第1部門は30～50枚以内、第2部門は20～30枚以内。 ・ パソコン等の場合は、A4判に見やすく印字。（縦書き、横書きいずれも可） ・ すべて未発表のもの ・ 800字程度の梗概（論文概要） ・ 応募者の氏名（ふりがな）、年齢、住所、電話番号、職業（できるだけ詳細に、学生は学校名・専攻学科）を必ず明記すること。 ・ 製本はクリップまたはステープルとすること。
応募資格	<p>以前に入選された方の応募資格はありません。ただし、佳作・奨励賞受賞者は応募できます。</p>
賞	<p>第1部門 1編 正賞「火焰様式楽人像」 副賞 50万円</p>  <p>第2部門 1編 正賞「鏡華鏡」 副賞 30万円</p>

	
選考委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梶田 毅一 [桃山学院教育大学 学長] ・ 川村 覚昭 [佛教大学元教授 (教育哲学)] ・ 山本 哲也 [元NHK金沢放送局 局長] ・ 氣多 雅子 [京都大学 名誉教授] ・ 上原 麻有子 [京都大学 文学研究科教授 (日本哲学史専修)]
応募締切	令和2年8月31日(月) 必着
応募方法	事務局へ郵送または持参すること。(晩鳥敏賞第1部門または第2部門在中と朱書きすること。)
選考結果	応募者あてに通知するとともに、市のホームページ上で発表します。
贈呈式	と き: 令和2年11月29日(日曜日)
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受理された応募作品は原則として返却いたしません。 2. 選考経過についてのお問い合わせには応じられません。 3. 受賞作品についての著作権は、すべて主催者に帰属します。

応募先及び問い合わせ先
 〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地 白山市観光文化スポーツ部文化振興課
 TEL. 076-274-9573 FAX. 076-274-9546
 <前回の入選論文集をご希望の方は電話・FAXまたはメールで申し込みください。>
 Email:bunkashinkou@city.hakusan.lg.jp

このページは役に立ちましたか。

役に立った
 役に立たなかった
 どちらともいえない
 その他

ご意見、ご感想をご記入ください。 ※なお、お答えが必要なご意見はこちらではお受けできませんので、ご了承ください。

送信

2020年度 第23回

ちゅうでん児童文学賞

作品募集

誰のころにも届く
作品のご応募を
お待ちしております

●募集内容 小学校高学年から大人までが楽しめる児童文学作品を募集。
自作未発表の作品で、日本語で書かれた作品であること。テーマは自由。

●応募資格 不問

●応募規定 原稿はA4判(横長)に40字×30行
縦書きで印字し、枚数50~70枚程度。

●賞

大賞 (1編)
賞状および副賞 **50万円**

大賞作品は単行本として出版し、
全国の公共図書館などへ寄贈します。

優秀賞 (2編)
賞状および副賞 **各20万円**



第21回 大賞
「みつきのお雲」
亀島 めいり / 著
(講談社)

●応募資格 締切日時点で19歳までの方

●応募規定 原稿はA4判(横長)に40字×30行縦書きで、枚
数20~35枚程度(400字詰め原稿用紙の場合
60~105枚程度)。表紙に「さくら賞に応募」と
明記のこと。

●賞

さくら賞 (1編)
賞状および副賞

図書カード **5万円分**

さくら賞作品は冊子として発行する予定です。

●応募方法 原稿にはページ数を振り、表紙に、①作品名 ②ページ枚数
③本名・筆名(ふりがな) ④〒・住所 ⑤電話番号 ⑥年齢
⑦性別 ⑧職業(学校名) ⑨メールアドレス ⑩この賞を何で
お知りになったかをご記入の上、郵送でご応募ください。

●応募先・お問い合わせ先

(公財)ちゅうでん教育振興財団「ちゅうでん児童文学賞」係
〒461-0005 名古屋市東区東桜二丁目6番30号 東桜会館4階
TEL:052(932)1741(平日9:00~17:00) FAX:052(932)1742

ちゅうでん 検索

●選考委員 **斉藤 洋** (児童文学作家、ドイツ文学者)
(五十音順)

富安 陽子 (児童文学作家)

鷲田 清一 (哲学者)

●結果発表 受賞作を2021年3月に、
財団ホームページにおいて公表予定。

●その他 大賞受賞作品の著作権は主催者に帰属します。
応募作品は返却いたしません。

個人情報の
取扱いについて

当財団が取得する個人情報は本事業に関する選考作業、連絡業務、その他確認
業務および財団事業に関する広報活動に限定して使用します。当財団は、受賞候
補者および受賞者に関する情報(作品名、氏名、都道府県名)を財団ホームペ
ジ・情報誌などに掲載するほか、広報活動のために公開します。

締切日 **2020年8月31日(月) 必着**



2020年6月吉日

各位

公益財団法人 旭硝子財団
助成事業部長 真鍋 恒夫

2021年度採択（2020年度募集）
公募型研究助成 学内周知のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団の研究助成事業につきまして、平素から深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当財団では、2021年度採択（2020年度募集）の公募型研究助成プログラム「研究奨励」ならびに「サステイナブルな未来への研究助成」の募集を、同封のパンフレットの通り行いますので、学内関係者への周知をお願い申し上げます。

「サステイナブルな未来への研究助成」プログラムは、昨年より募集を開始したプログラムで、1992年に始まった地球環境国際賞「ブループラネット賞」を始めとしてサステイナブルな未来の創造を目指す当財団の研究助成として、従来のプログラムを再編し、課題を明確にした、研究者のニーズに細かく対応する助成プログラムです。

応募要項は当財団ホームページ <https://www.af-info.or.jp/>（旭硝子財団ホームページトップ→研究助成→応募要項）からのダウンロードをお願いいたします。

本依頼状が不適切な部署に届きました場合には、メールまたはFAXでご一報くだされば幸いです。

以上、よろしくお願ひ申し上げます。

敬 具

<送付書類>

・「旭硝子財団 研究助成プログラム」パンフレット

※「旭硝子財団 研究助成プログラム」のパンフレットは当財団ホームページからダウンロード可能で、URLはリンクフリーです。

※継続型助成プログラム「若手継続グラント」、「ステップアップ助成」については、応募情報を有資格者へのみ直接お伝えしております。

以 上

公益財団法人 旭硝子財団

2021 年度採択（2020 年度募集）

「研究奨励」 応募要項

1. 研究助成の目的

旭硝子財団は、次世代社会の基盤を構築するような独創的な研究への助成事業を通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。当財団には 4 つの国内研究助成プログラムがあります。「研究奨励」プログラムは、若手研究者による基礎的・萌芽的な研究を支援するとともに、助成期間終了後には継続型グラントへの応募機会を提供いたします。

2. 応募要件

1. 所属機関：主たる勤務先が国内の大学とその附置研究所、大学共同利用機関、高等専門学校（但し大学附属病院専従の方は対象外です）
2. 職位：上記の機関に所属し、主体的に研究を進めている原則常勤の研究者
 - ・任期付研究者の場合には、応募時点において、申請する研究期間のうち、少なくとも初年度の雇用が見込まれること
 - ・職務専念義務上、外部研究費の受給にかかわる制約がないこと
3. 機関承認：当財団からの寄附金を所属機関が研究費として管理する前提のもとに、所属長が応募を承認していること
4. 年齢：1975 年 1 月 1 日以降生まれであること
5. 助成および応募の重複：応募時点で当財団からの研究助成を受けていないこと、ならびに当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと

3. 助成対象研究分野

以下の 2 分野について助成を行います。各分野の具体的な研究領域は、次ページに示します。

化学・生命分野	化学・生命科学系の研究で、物質・材料、生命・生物に関わる研究、およびこれらに関係の深い研究
物理・情報分野	物理・情報系の研究で、材料・デバイス・システム、情報・制御ならびに設計・生産の基礎に関わる研究、およびこれらに関係の深い研究

※建築・都市分野、人文・社会科学分野の研究奨励プログラムの募集は終了し、「サステイナブルな未来への研究助成」プログラムに移行いたしました。

4. 採択数

2 分野の合計として、50 件程度の予定です。

5. 2020 年度に募集する研究領域

分野	研究領域
<p style="text-align: center;">化学・生命 分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> a 機能物質や材料の設計・合成・評価 b 精密合成手法の開拓 c ナノレベルの構造制御と機能発現 d 環境・エネルギー関連材料・プロセスの開発 e 生理活性物質、バイオメディカル材料・デバイス・システム・バイオセンサー f 生物機能を活用した物質生産とエネルギー生産 g 生物間相互作用に基づく生命現象の分子・原子レベルでの解明 h 異分野融合型の化学・生命科学研究 (例えば、理工学・医学・計算科学・人工知能・環境科学・人文社会科学との融合型研究など) i 化学・生命科学研究を加速する計測科学や情報科学および新技術の開発 j 分子・物質・材料系の領域で、申請者が提案するテーマ
<p style="text-align: center;">物理・情報 分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> k エネルギー新技術・新デバイス l 半導体、スピントロニクス、フォトニクス m 量子情報と関連技術 n 新機能材料、デバイスをめざす新現象 o マイクロ・ナノ化による新機能・新システム、MEMS・NEMS p センシング技術、計測技術、IoT、知能システム q 情報処理技術の自然・社会工学への応用 r デバイスの設計・製造・実装および評価検査技術 s 物理・情報系または異分野との融合領域で、申請者が提案するテーマ

6. 助成額と研究期間、助成金の振込時期

1 件あたりの助成申請額の上限は、200 万円とします。研究期間は 2021 年 4 月から 1 年間または 2 年間です。但し、研究期間に拘わらず、助成金は 2021 年 5-6 月に一括して振込む予定です。

※採択にあたり、当財団は予算の減額調整を行うことがあります。

7. 助成金の使途

以下の1.～5.の費用を申請可能です。費目間の分配比率に指定はありませんが、資金計画の適否も選考審査の対象です。使途の詳細については、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています（ホームページからダウンロード可能です）。

1. 設備 備品費（プロジェクト遂行に必要な消耗品費等も申請してください）
2. 消耗品費
3. 旅費：出張経費（交通費、宿泊費）の実費精算とし、原則、手当（日当）への充当は認められません。
4. 謝金（データ整理等のアルバイトなどの労役対価）
5. その他（論文掲載経費・通信費・図書費・施設使用料・学会参加費・会議費など）
6. 所属機関へ支払う間接経費／オーバーヘッド（使途が明示されない学内費用）：原則としてはお支払いできませんので、採択後に必ず学内で免除申請を行ってください。もし間接経費が助成額の5%を超える場合は採択の対象になりません。
7. 労務費（給与や社会保険費等）：助成金を申請者やチームメンバー等の労務費に充当することはできません。但し申請があればアルバイトの労災保険料を認めることがあります。

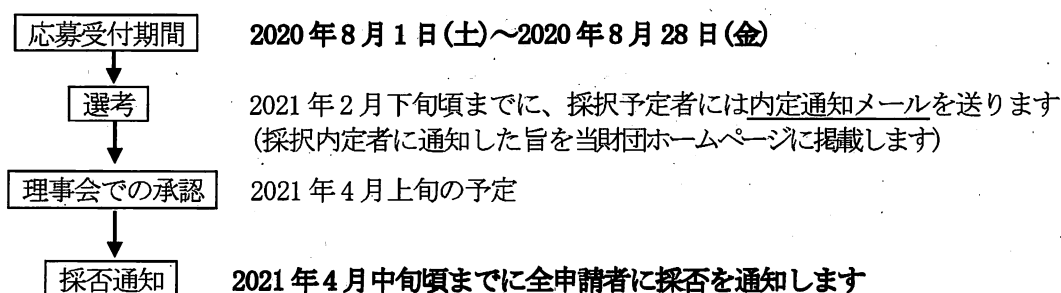
※同じ研究（使途）内容で他の機関に助成申請されることも差し支えありませんが、他の機関からも重複して採択された場合には、必ず当財団にご相談ください。故意に申告せず、重複した助成が判明した場合には、採択が取り消されることがあります。ただし、当財団は、同一の大きな目的に向けての研究であっても、個別の助成プロジェクトの目的や内容が異なっていれば、他の助成プロジェクトと並行して進めることは原則認めています。

8. 応募方法 当財団のホームページ経由で以下の手順にて行ってください。

1. 申込書（所属長の捺印を要します）
 2. 申請書
- 当財団ホームページからWORDの書式をダウンロードして、PDFに変換の上、アップロードしてください
申請書は英文で記入してもかまいませんが、1ページ目は日本語で記入してください。
3. 論文別刷（2015年以降に発表したもの1件をアップロードしてください）
 4. 応募受付期間 2020年8月1日（土）～2020年8月28日（金）
 5. アップロード 上記の期間中、当財団ホームページにある「応募要項」ページ内の「研究助成 電子申請ページ」から申請してください。申請方法の詳細については当該ホームページに記載されています。申請書一式を受領した旨、当財団から自動返信メールを送ります。また、申請内容を確認し、締切後3週間以内に受理通知メールを送ります。

※ 申請書一式（上記の1.～3.）は当財団において管理し、研究助成の目的以外には使用いたしません。

9. 選考日程と採否通知



※採否通知発送までの期間に、応募要件外の機関へ異動する場合や、他の機関から重複して採択された場合には、内定時点でも必ずご連絡下さい。また、個別のご照会には回答いたしかねますので、ご了承ください。

10. 選考のポイント

- プログラムの趣旨や募集する研究領域との合致
- 研究課題の設定、ブレークスルーに関する提案
- 研究の独創性
- 研究の学術的または社会的な意義と波及効果
- 研究計画の実行可能性、研究助成金の使途内訳など

※ 選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を開示して評価意見を求めることがあります。

11. 研究助成金の会計処理

助成金を研究者個人の口座へ振込むことはできません。当財団が所属機関宛に寄附金として贈呈しますので、当財団の「研究助成の手引き」と所属機関の研究費使用規程に従って会計処理をお願いいたします。予算の変更、助成金の翌年度への繰り越し、研究終了時の残余金の扱い等については、「研究助成の手引き」に記載されています。

12. 採択後の提出物等

下記の書類のご提出、ならびに当財団の出版物へのご寄稿や助成研究発表会でのプレゼンテーションをお願いします。

1. 振込依頼書：初年度期首に提出
2. 予算申請書：毎年度期首に提出
3. 顔写真(電子ファイル)：採択時に提出
4. 助成研究経過報告(兼 継続申請書)：年度末の継続時に提出
5. 決算報告書：年度末の継続時と終了時に提出
6. 助成期間中のコミュニケーション：中間発表や当財団関係者の訪問等をお願いすることがあります
7. 助成研究成果報告：研究期間終了後の5月頃 WEB 入稿締切。財団HP、冊子で一般公開します
8. 助成研究発表会：研究期間終了後の原則7月
9. その他学術団体等の会合での発表：選考委員からの要請に基づいてお願いすることがあります

13. 研究成果の扱い

当財団による助成研究の成果については、積極的な論文発表や口頭発表をお願いいたします。論文発表等にあたり、当財団からの研究助成を受けた旨をお書き添えください。詳細は、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています。研究成果に基づいた特許または実用新案の出願に際して、当財団は権利を主張しません。

14. 継続型研究助成プログラムについて

当財団の研究助成終了者だけを募集対象にした継続型グラントプログラムがありますので、是非とも研究成果を挙げられ、再度ご応募くださるよう、期待申し上げます。詳細は、当財団より対象者に直接ご案内いたします。

15. 個人情報の取り扱い

当財団に提出いただいた個人情報は、研究助成以外の目的には使用いたしません。

16. ご参考

<選考委員>

化学・生命分野	
三品 昌美 (委員長)	立命館大学総合科学技術研究機構客員教授、東京大学名誉教授
大越 慎一	東京大学大学院理学系研究科教授
片岡 一則	川崎市産業振興財団副理事長・ナノ医療イノベーションセンター長、 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
加藤 隆史	東京大学大学院工学系研究科教授
田部 勢津久	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
渡慶次 学	北海道大学大学院工学研究院教授
西山 真	東京大学生物生産工学研究センター教授
松原 誠二郎	京都大学大学院工学研究科教授
物理・情報分野	
樽茶 清悟 (委員長)	理化学研究所創発物性科学研究センター副センター長
伊藤 寿浩	東京大学大学院工学系研究科教授
斎藤 洋	東京大学数理・情報教育研究センター教授
高梨 弘毅	東北大学金属材料研究所教授
波多野 睦子	東京工業大学工学院電気電子系教授

<過去の助成実績、成果報告>

当財団のホームページで、過去に助成を受けた研究の一覧や助成研究成果報告を閲覧することができます。また、過年度の応募数は、当該年度の「事業報告書」に記載されています。

旭硝子財団について

目的 旭硝子財団は、次の時代を拓くための研究等への助成、次の時代を担う優れた人材への奨学助成、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対する顕彰などを通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。

沿革 旭硝子財団は、旭硝子株式会社（現 AGC株式会社）創業 25 周年を記念して、その翌年の 1933 年（昭和 8 年）に旭化学工業奨励会として設立されました。発足以来、戦後の混乱期を除いて、応用化学分野の研究に対する助成を継続しました。その後、1990 年に新しい時代の要請に応える財団を目指して事業内容を全面的に見直し、助成対象分野の拡大と顕彰事業の新設を行うとともに財団の名称を旭硝子財団に改めました。2018 年（平成 30 年）に公益財団法人 旭硝子奨学会を合併し、研究助成事業、奨学事業、顕彰事業を 3 本の柱とする活動を行っています。

研究助成事業 次世代社会の基盤を構築するような化学・生命分野、物理・情報分野の独創的な研究、および社会の重要課題の解決に指針を与えるような建築・都市分野、人文・社会科学分野、環境フィールド研究分野の研究を助成します。国内の大学だけでなく、チュラロンコン大学（タイ）、キングモンクット工科大学トンブリ校（同）、バンドン工科大学（インドネシア）およびハノイ工科大学（ベトナム）に対しても、研究助成を行っています。

奨学事業 奨学プログラムは、1957 年（昭和 32 年）に設立された公益財団法人 旭硝子奨学会の事業として始まりました。以来、経済的な援助を必要とする優れた日本人学生に対して奨学金を給付し、1990 年からは外国人留学生にも対象を拡げています。また、2012 年からは、東日本大震災で被災された高校生に対する支援も行っています。2018 年より、奨学事業は旭硝子財団に移管され、持続可能な社会および文明の創造に寄与する人材の育成に取り組んでいます。

顕彰事業 「ブループラネット賞」は、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対して感謝を捧げると共に、多くの人々がそれぞれの立場で環境問題の解決に参加されることを願って創設されました。国内外のノミネーターに候補者の推薦を依頼し、その中から毎年原則として 2 件を選定します。受賞者にはそれぞれ賞状・トロフィーならびに副賞賞金 5,000 万円が贈呈されます。

公益財団法人 旭硝子財団

<https://www.af-info.or.jp>

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2F

TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

E-mail: research@af-info.or.jp

公益財団法人 旭硝子財団

2021 年度採択 (2020 年度募集) 「サステイナブルな未来への研究助成」応募要項

1. 研究助成の目的

旭硝子財団は、次世代社会の基盤を構築するような独創的な研究への助成事業を通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。当財団には4つの国内研究助成プログラムがありますが、「サステイナブルな未来への研究助成」プログラムは、1992年に始まった地球環境国際賞「ブループラネット賞」を始めとしてサステイナブルな未来の創造を目指す旭硝子財団の研究助成として、従来のプログラムを再編し、課題を明確にした、研究者のニーズに細かく対応する助成プログラムです。

2. 助成対象分野と助成研究コース

以下の3分野について助成を行います。各分野の具体的な研究領域は、次ページに示します。

建築・都市分野	人間生活の歴史と現状、将来を視野に置いた建築・都市空間に関わる研究
人文・社会科学分野	持続可能な社会の実現に向けた人文・社会科学的な研究
環境フィールド研究	自然と人との良好な関係の維持・構築に資するフィールド調査を中心とする研究

研究の実績や内容により、以下のコースのどちらか一方のみにご応募いただけます。

	提案研究コース	発展研究コース
内容	基礎的・萌芽的研究を中心として広く研究者のアイデア提案を支援するコース	基礎的な研究の成果をもとに、さらに発展させる研究を支援するコース
申請者年齢	45歳以下の若手研究者	年齢制限なし
助成申請額※	建築・都市分野：50～150万円 人文・社会科学分野：50～100万円 環境フィールド研究分野：50～100万円	建築・都市分野：200～400万円 人文・社会科学分野：200～300万円 環境フィールド研究分野：200～400万円
研究期間	1年間または2年間	2～4年間
選考方法	書類審査	書類審査、ヒアリング審査
採択予定数	15件程度	10件程度

※採択にあたり、当財団は申請予算の減額調整を行うことがあります。

3. 応募要件

1. 所属機関：主たる勤務先が国内の大学とその附置研究所、大学共同利用機関、高等専門学校（但し大学附属病院専従の方は対象外です）
2. 職位：上記の機関に所属し、主体的に研究を進めている原則常勤の研究者
・任期付研究者の場合には、応募時点において、申請する研究期間のうち、少なくとも初年度の雇用が見込まれること
・職務専念義務上、外部研究費の受給にかかわる制約がないこと
3. 機関承認：当財団からの寄附金を所属機関が研究費として管理する前提のもとに、所属長が応募を承認していること
4. 年齢：**提案研究コース**は、1975年1月1日以降生まれであること。**発展研究コース**は、年齢制限を設けません。
5. 助成および応募の重複：応募時点で当財団からの研究助成を受けていないこと、ならびに当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと

4. 2020 年度に募集する研究領域

分野	研究領域
建築・都市分野	a 建築・都市の新たな価値創造に資する研究 b 地域社会の活力を担う都市・建築 c 都市・建築のストックを良質なものにするための計画・技術 d サステイナブルな社会を構築するための都市・建築の計画・技術 e 安全・安心を支える都市・建築
人文・社会科学分野	f 環境と両立する経済社会の形成に関する研究 g 環境汚染・自然破壊・自然災害などが人間社会にもたらす諸問題に関する研究 h 感染症やそれに関わる政策などが人間社会にもたらす諸問題に関する研究 i 持続可能なコミュニティ形成や国際協力に関する研究 j 持続可能な社会を担うアクター（市民・NPO/NGO・企業・自治体等）に関する研究 k 人口減少社会のビジョン構築に関する研究 l 社会的平等を実現するシステム・政策に関する研究 m その他、持続可能な社会の実現に向けて、申請者が上記の諸テーマにとらわれずに提案する研究
環境フィールド研究分野※	n 生物多様性・生態系の基礎研究 o 絶滅危惧種の保護や外来種対策を含む保全・再生や持続的利用など p 自然環境や自然史に関するフィールド研究 q その他、自然と人との良好な関係の維持・構築に資するフィールド調査を中心とする研究 ※フィールド調査の対象地域は日本ならびに周辺のアジア地域とします

5. 助成金の振込時期と活用方法

助成金は2021年5～6月に一括して振込む予定ですので、所属機関において年度繰越をしながら研究期間内に計画通り活用してください。

6. 助成金の使途

以下の1.～5.の費用を申請可能です。費目間の分配比率に指定はありませんが、資金計画の適否も選考審査の対象です。使途の詳細については、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています（ホームページからダウンロード可能です）。

1. 設備・備品費（プロジェクト遂行に必要な消耗品費等も申請してください）
2. 消耗品費
3. 旅費：出張経費（交通費、宿泊費）の実費精算とし、原則、手当（日当）への充当は認められません。
4. 謝金（データ整理等のアルバイト・フィールド調査などの労役対価）
5. その他（論文掲載経費・通信費・図書費・施設使用料・学会参加費・会議費など）
6. 所属機関へ支払う間接経費／オーバーヘッド（使途が明示されない学内費用）：原則としてはお支払いできませんので、採択後に必ず学内で免除申請を行ってください。もし間接経費が助成額の5%を超える場合は採択の対象になりません。
7. 労務費（給与や社会保険費等）：助成金を申請者やチームメンバー等の労務費に充当することはできません。但し申請があればアルバイトの労災保険料を認めることがあります。

※同じ研究（使途）内容で他の機関に助成申請されることも差し支えありませんが、他の機関からも重複して採択された場合には、必ず当財団にご相談ください。故意に申告せず、重複した助成が判明した場合には、採択が取り消されることがあります。ただし、当財団は、同一の大きな目的に向けての研究であっても、個別の助成プロジェクトの目的や内容が異なっていれば、他の助成プロジェクトと並行して進めることは原則認めています。

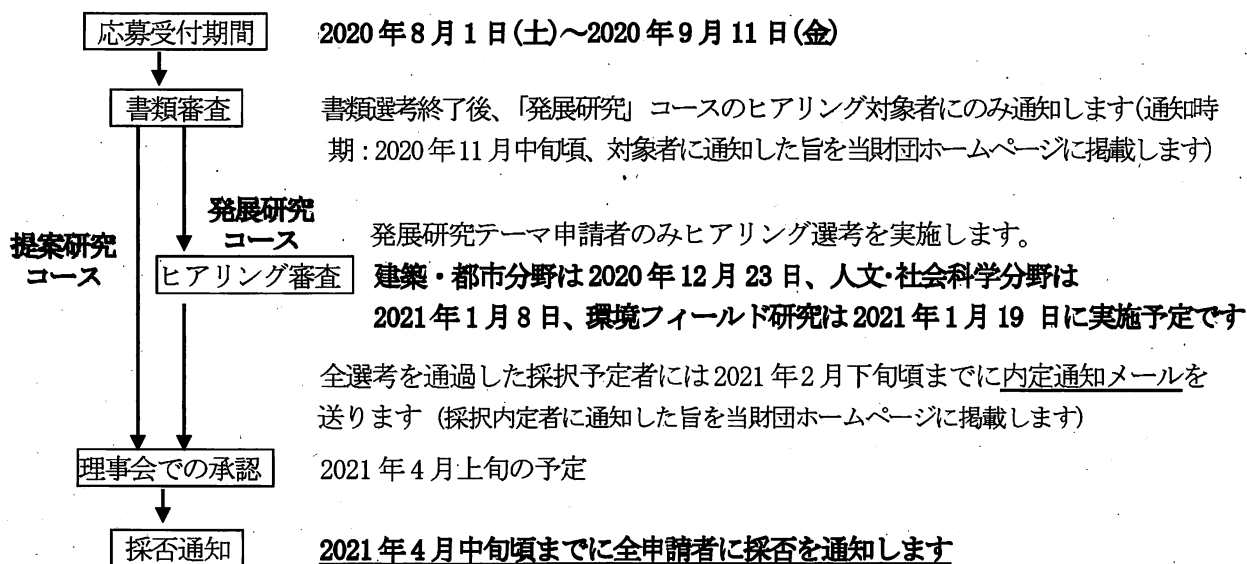
7. 応募方法

当財団のホームページ経由で以下の手順にて行ってください。

1. 申込書 (所属長の捺印を要します)
2. 申請書
3. 論文別刷 (「発展研究」コースのみ、2015年以降に発表したもの1件をアップロードしてください。)
4. 応募受付期間 2020年8月1日(土)～2020年9月11日(金)
5. アップロード 上記の期間中、当財団ホームページにある「応募要項」ページ内の「研究助成 電子申請ページ」から申請してください。申請方法の詳細については当該ホームページに記載されています。申請書一式を受領した旨、当財団から自動返信メールを送ります。また、申請内容を確認し、締切後3週間以内に受理通知メールを送ります。

※ 申請書一式 (上記の1.～3.) は当財団において管理し、研究助成の目的以外には使用いたしません。

8. 選考日程と採否通知



※ 採否通知発送までの期間に、応募要件外の機関へ異動する場合や、他の機関から重複して採択された場合には、内定時点でも必ずご連絡下さい。また、個別のご照会には回答いたしかねますので、ご了承ください。

9. 選考のポイント

- プログラムの趣旨や募集する研究領域との合致
- 研究課題・調査対象の設定の妥当性と独自性
- 研究の学術的な意義と独創性、研究の社会的な意義と波及効果
- 研究計画の実行可能性、研究助成金の使途の適切性
- 発展研究コースは、年齢制限は設けませんが、意欲ある若手研究者の応募を歓迎します
- 分野によっては、調査対象地域の学校関係者・NPO・博物館や自治体などとの連携計画が評価される場合がありますが、申請は主として研究に関する計画を提案して下さい

※ 選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を開示して評価意見を求めることがあります。

10. 研究助成金の会計処理

助成金を研究者個人の口座へ振込むことはできません。当財団が所属機関宛に寄附金として贈呈しますので、当財団の「研究助成の手引き」と所属機関の研究費使用規程に従って会計処理をお願いいたします。予算の変更、助成金の翌年度への繰り越し、研究終了時の残余金の扱い等については、「研究助成の手引き」に記載されています。

11. 採択後の提出物等

下記の書類のご提出、ならびに当財団の出版物へのご寄稿や助成研究発表会でのプレゼンテーションをお願いします。

1. 振込依頼書：初年度期首に提出
2. 予算申請書：毎年度期首に提出
3. 顔写真(電子ファイル)：採択時に提出
4. 助成研究経過報告(兼 継続申請書)：年度末の継続時に提出
5. 決算報告書：年度末の継続時と終了時に提出
6. 助成期間中のコミュニケーション：中間発表や当財団関係者の訪問等をお願いすることがあります
7. 助成研究成果報告：研究期間終了後の5月頃 WEB 入稿締切。財団 HP、冊子で一般公開します
8. 助成研究発表会：研究期間終了後の原則7月
9. その他学術団体等の会合での発表：選考委員からの要請に基づいてお願いすることがあります

12. 研究成果の扱い

当財団による助成研究の成果については、積極的な論文発表や口頭発表をお願いいたします。論文発表等にあたり、当財団からの研究助成を受けた旨をお書き添えください。詳細は、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています。研究成果に基づいた特許または実用新案の出願に際して、当財団は権利を主張しません。

13. 選考委員

建築・都市分野	
中井 検裕 (委員長)	東京工業大学環境・社会理工学院建築学系教授
高口 洋人	早稲田大学理工学術院教授
藤田 香織	東京大学大学院工学系研究科教授
人文・社会科学分野	
大塚 直 (委員長)	早稲田大学法学部教授
梅津 千恵子	京都大学大学院農学研究科教授
蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
佐藤 郁哉	同志社大学商学部教授
環境フィールド研究分野	
鷲谷 いづみ (委員長)	東京大学名誉教授
加藤 真	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
河川 篤史	鳥取大学乾燥地研究センター教授

14. 個人情報の取り扱い

当財団に提出いただいた個人情報は、研究助成以外の目的には使用いたしません。

旭硝子財団について

目的 旭硝子財団は、次の時代を拓くための研究等への助成、次の時代を担う優れた人材への奨学助成、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対する顕彰などを通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。

沿革 旭硝子財団は、旭硝子株式会社（現 AGC株式会社）創業 25 周年を記念して、その翌年の 1933 年（昭和 8 年）に旭化学工業奨励会として設立されました。発足以来、戦後の混乱期を除いて、応用化学分野の研究に対する助成を継続しました。その後、1990 年に新しい時代の要請に応える財団を目指して事業内容を全面的に見直し、助成対象分野の拡大と顕彰事業の新設を行うとともに財団の名称を旭硝子財団に改めました。2018 年（平成 30 年）に公益財団法人 旭硝子奨学会を合併し、研究助成事業、奨学事業、顕彰事業を 3 本の柱とする活動を行っています。

研究助成事業 次世代社会の基盤を構築するような化学・生命分野、物理・情報分野の独創的な研究、および社会の重要課題の解決に指針を与えるような建築・都市分野、人文・社会科学分野、環境フィールド研究分野の研究を助成します。国内の大学だけでなく、チュラロンコン大学（タイ）、キングモンクット工科大学トンプリ校（同）、バンドン工科大学（インドネシア）およびハノイ工科大学（ベトナム）に対しても、研究助成を行っています。

奨学事業 奨学プログラムは、1957 年（昭和 32 年）に設立された公益財団法人 旭硝子奨学会の事業として始まりました。以来、経済的な援助を必要とする優れた日本人学生に対して奨学金を給付し、1990 年からは外国人留学生にも対象を拡げています。また、2012 年からは、東日本大震災で被災された高校生に対する支援も行っています。2018 年より、奨学事業は旭硝子財団に移管され、持続可能な社会および文明の創造に寄与する人材の育成に取り組んでいます。

顕彰事業 「ブループラネット賞」は、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対して感謝を捧げると共に、多くの人々がそれぞれの立場で環境問題の解決に参加されることを願って創設されました。国内外のノミネーターに候補者の推薦を依頼し、その中から毎年原則として 2 件を選定します。受賞者にはそれぞれ賞状・トロフィーならびに副賞賞金 5,000 万円が贈呈されます。

公益財団法人 旭硝子財団

<https://www.af-info.or.jp>

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2F

TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

E-mail: research@af-info.or.jp